



## 記念の品

森屋 建男



年齢とともに時間の速さは加速していく感じがする。Uさんが2・3年前にいつも介護に来ている方がマスターズのロゴが入ったトレーナーを着ている、と私に話してくれた。その方はきっと昔マスターズに在籍していたはずだと思ったそう。そのトレーナーは創立10周年記念で作ったから15年前のものだ。20周年の時は全面デザインのスポーツタオルと気に入っている名前入りのタグ。あれからもう5年も経ってしまった。そして今年は、やはり25周年記念に何かということでTシャツになった。今回は費用が少ないのでユニクロで購入し、見栄えのする金糸でマスターズの滑っているいつものロゴを刺繍した。どれも自分にとっては思い入れのある記念の品です。



9月に6年前の秋の一泊で南房総へ行った時に皆でこねて作った石鹸を使った。それは昔洗濯板で擦って使っていたミヨシ石鹸のようにデカイのですが、すごく泡立ちが良くてびっくりした。泡を出すほどだんだんと小さくなって、とうとう消えてしまった。使いながら岩田さんをお願い出した。その房総半島を巡る旅のバスの中で、彼は野島崎灯台見物後、はぐれた。暫くして見つかったが、海軍兵学校時代その上空を目指して操縦した感動的な話をバスの中でしてくれた。彼は最後の海軍大将だった井上成美(シゲヨシ)が海軍兵学校の校長だった頃の昭和16年に入校し、何年か前に成美の伝記を編集している。開戦反対を唱えていた成美の影響だろうか、毎年の年賀状には平和の大切さを書いていた。若い頃の貴重な体験が重みのある思いとして持ち続けてきたのだらうと思います。亡くなられた方で一番印象深い方でした。

ちょうどその石鹸を使い切る頃、整理した中からある日記(旅行記)が出てきた。それはもう何年も前に退会している横山さんの50年くらい前の独身時代の“三人娘東北ビンボー旅行”のコピーであった。読み返すと、今の若い人にはとても考えられないかもしれないが、旅行の11日間を米と飯盒や鍋を背負い、電車やバスに乗り、泊まる小学校を探しながら三陸から下北半島などを面白可笑しく旅行した素晴らしい日記でした。自分も学生時代、東北を駅のホームの硬い木のベンチなどで寝泊まりした旅行があり、その体験と重なったので、娘とその中二の孫にひもじくも楽しかった青春を伝えたく思い、その日記を押し付けました。彼女のユーモアに富んだ言動はマスターズの中で新鮮でいつも皆を楽しませてくれ、退会された中で非常に思い出に残る素敵なお方です。この日記は捨て難い。

再び7年後に東京オリンピックが決まった。あのプレゼンには感動し、決まった時は最高だった。世間の高齢者の合言葉は「それまで長生きしよう!」のようです。マスターズなら「それまで滑ろう!」であればいいのですが、どうかな? 開会式は真夏の7月24日。今年も暑かったが温暖化でもっと暑くなるかもしれない。私は新しい国立競技場で開会式をぜひ見てみたい。だめならテレビの前で、「オ・モ・テ・ナ・シ」を思い出しながら、その時の記念のTシャツを着て、ビールで乾杯!といきたい。安いTシャツだから7年後にはボロになり、頭はボケて着ることを忘れていないかもしれない。どなたか覚えておいて「本日は開会式、Tシャツ、Tシャツ」とメールをください。今年の秋の一泊には何人かの方は(私も)このTシャツを持って来ました。皆さんクラブ愛、持っていますね。

時間の加速は振り返ってみて感じるものです。楽しみを待ちわびている時はなかなか進まないようです。楽しみが回り灯籠のように次々に巡って来ますように・・・(祈)。

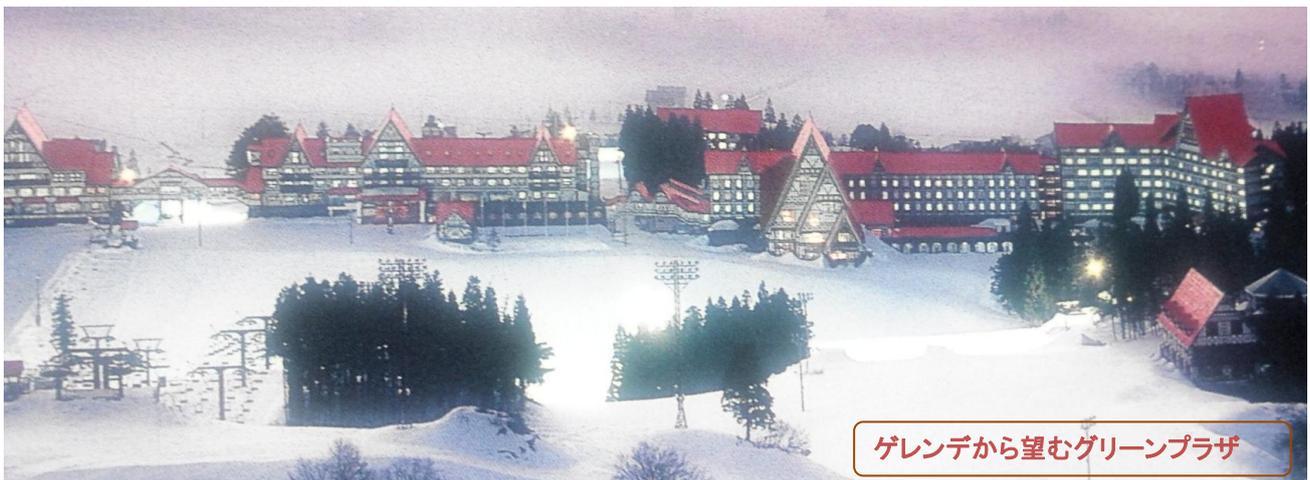


待ちに待った今シーズンのマスターズスキーツアーが始まった。今冬はまれにみる寒気団の南下で、12月早々から日本海側を中心に爆弾低気圧による大雪。年未来関東甲信越のスキー場はどこも滑走可という、スキー愛好者にとっては願ってもない好条件でのシーズンインとなった。

マスターズのスキーツアー開幕は、昨年に引き続き新潟県南魚沼市の、ホテルグリーンプラザをベースにした上越国際スキー場。

### 第1日目 1月8日(火曜日)曇り

今回はバス利用者17名、現地集合3名、ゲレンデ参加2名、総勢22名の初すべりツアーとなった。恒例により、全観交通車庫を出発したバスは、中央公民館・ルネ小平・花小金井駅前と参加者をピックアップ、予定通り7時には小平を出発した。運転手はここ2年馴染みとなった、アイスバーンヘッドの関運転手。冗談が通じ、のり突っ込みの間合いもよく、吉本の芸人かと思紛うばかりのその風体は、眠気覚ましにいじりながらの旅に丁度いい。バスは順調に走行、11時頃には白銀広がる眩しいゲレンデに凜々しくたたずむ、ホテルグリーンプラザ上越に到着した。



1,000万㎡のエリアに個性あふれるゲレンデと、25基のリフトを配したビッグなスキー場。とりわけ、南魚沼の自然に抱かれ白銀のスキー場内に建つ北欧風のロマンチックな赤い三角屋根がシンボリックな「ホテルグリーンプラザ上越」は特筆、機能的な配置で余裕の広さの客室や、露天風呂付の天然温泉大浴場など、総てにおいて居心地のよい時間を提供してくれる。また、何といっても目の前がゲレンデと移動の手間がなく、時間を効率的かつ自由に活用でき、団体行動ではあるものの自分のペースに合わせた時間設計ができるのも、年々高齢化が進む我々マスターズにとって大変魅力である。

ホテルはビッグなキャパシティをほこり、収容人員は新館90室510名、本館62室407名、コネクション館110室330名の1,247名との事。この日も150名ほどの宿泊客がいたようだが、館内は混んだ様子はなく人気はまばらな感じである。

現地集合者とゲレンデ参加者の5名を含め総勢22名が玄関前ゲレンデに集合、4班程度に分かれゲレンデに散る。曇ってはいるものの、風もなく十分な積雪とまずまずのコンディション。各班共それぞれのペースで楽しんだ。

夕方、ホテル内エレベーターの前でコワイお姉さまのYさん、エレベーターのパネルを盛んに押しながら何やらブツブツ!! 「可笑しいわね～?このエレベーター呼んでも来ないわ～! 故障かしら～?・・・」。隣に立っていたIさん、「この△ボタンを押さないと来ないんじゃない、それ鍵穴よ!」、ム・ム・ム・・・故障していたのはエレベーターじゃ

無かったようですねー。お元気なのは皆が認めるYさん、ガンガン滑るのも結構ですが、故障しない程度にしましょうネ～～？

## レストラン モンテローザ

さー楽しみの夕食、今回は二日目に帰京する人もいるため懇親会を初日に繰上げて実施。

会場はコネクション館B1Fのレストラン【モンテローザ】、正にヨーロッパ・アルプス、スイス国境のリゾートホテルのレストランに居る如き錯覚を覚える雰囲気。バイキング形式でうまさうな料理が並びその香りが食欲をそそる。しかし、アル中予備軍



の男性陣は迷うことなく1,480円の飲み放題を選択、料理には目もくれずまずはアルコールの並ぶコーナーへ、ビール・ワイン・焼酎・日本酒と、品揃えは文句なし。

さすが新潟、日本酒は八海山に鶴齢と銘酒が揃いこれがまた美味しい。自宅とは異なりブレイキ役が居ないので、5～6名の酒好きの面々はハイペース。ビールは大ジョッキ20杯、焼酎は4合瓶2本、好評の日本酒は3升ほど空けたらどうか！。後日確認したところ日本酒は1合600円するらしい、すると3升で18,000円、この飲み放題安ッ！

### 第2日目 1月9日(水曜日) 晴れのち雪

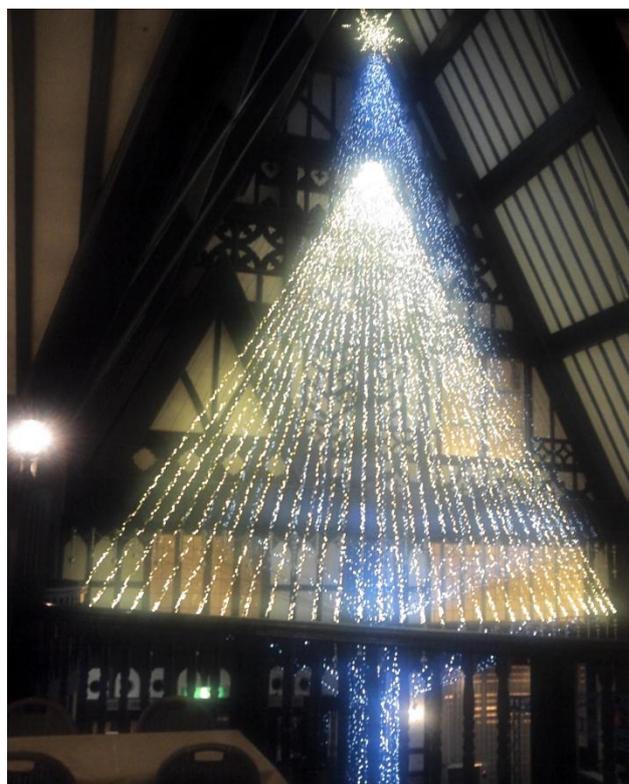
朝から太陽が出て眩しいばかりのゲレンデ。今日もそれぞれグループに分かれ滑走。女性主体の相澤班は最も奥の当間ゲレンデ迄足をのぼし、当間山頂近くの当間第4ゲレンデからの絶景を堪能し、レストラン「ホルン」の焼き立てフランスパンやポトフがセットの「スペシャルホルンセット」に舌鼓を打った由。我々男性不器用組は美奈ゲレンデで沢渡講師の熱血指導で専ら練習&また練習、

♪♪ ナ・ミ・ダの数だけ強くなれるよ～♪♪。  
繰り返し指導を受けてもなかなか出来ず、気が付けば帰路はナイター照明の中。ホテルの30メートルの吹き抜けロビーにも既にイルミネーションが点灯しなかなか良い雰囲気で、一日の疲れを癒してくれた。

### 第3日目 1月10日(木曜日) 濃霧に雪

昨夜来雪が降り続き、最終日のゲレンデはうっすらと新雪。この朝は、我がシュプールを描かんとばかり集合前に競ってゲレンデへ。押さえた上に10センチほどの新雪が積もり、膝近くまで新雪を巻き上げての滑走は実に爽快。各グループに分かれゲレンデに散った後も降り続く雪でゲレンデはフカフカ。スピードは出ないものの転倒者が続出。転倒し大股を開き、あられもない色っぽい姿で悶え苦しむK井さん。また、深雪に突っ込みヘルメットが真っ白、いつもはスキンヘッドながら“白髪も似合うかもネー”と皆が妙に感心させられた、新ヘアスタイル披露のT間さん、最優秀演技賞です。

結局一日中降り続き、♪あと1本、自嘲するのが、楽しむ秘訣♪、無理は禁物と昼で切り上げ温泉大浴場へ。ここは疲れを癒して貰えるようにと天然温泉を引き込み、露天風呂



30メートル吹き抜けのロビー

呂やサウナ・水風呂・ジャグジーバスなども併設して工夫を凝らしており、ゆったりとくつろげる。泉質はナトリウムカルシウム塩化物泉(弱アルカリ性温泉)、効能は筋肉痛・関節痛・うちみ・神経痛・疲労回復・冷え性などと、湯治場の温泉に勝るとも劣らない程の湯であり、是非帰る前には利用し疲れを取りたい温泉である。

予定の15時より10分早くホテルを出発、帰路も誠に順調で、全員何事もなく初すべりを堪能した。幹事さんのご尽力で、実に満足なツアーを安全に楽しく終了出来た事に感謝・感謝。 完

**初滑りで編集者が撮った写真追加**



**トリオ ラス リンダ**



**クインテット ロス ダンナ**



お前のウェアー ゴミ袋？

うん、これが暑くなく 丁度いい



**飲み放題で シャベリ放題楽しんで**

**深雪を滑りたい放題楽しむ**



**飲むのは控えました 明日のために・・・**



**お〜い、でっかいオレも見てくれ〜**





岡戸 洋祐 (2012年6月入会、スクール初参加者)

第1日目 (晴れ後曇り)

1月28日全観チャーターバスは、最終集合地の花小金井駅前で4人乗せ総勢23名で小雪の午前7時過ぎに出発。幹事の原山・乗越氏の挨拶、会長の森屋氏より、仲間の近況(健康の話が多い)と今期のスキー行事に係る報告。



小雪の花小金井駅前

直後どうも定例らしい車中ミニ宴会(特に車中後部付近)が始まり賑やかに四方山話やスキー談義などに花が咲き、晴れ模様が変わった関越道の高坂PAと赤城高原SAで休憩し、マスターズ初利用のゲレンデ直結の一番人気の宿「尾瀬岩鞍リゾートホテル」に10時半頃到着、現地合流の2名と合わせ総勢25名の揃い踏み。



岩鞍リゾートホテル

早速滑り支度し、スキー日和のゲレンデに11時前に集合(筆者はまず十二山神宮で安全祈願)、雪質もまずまずだ。幹事と会長の挨拶と記念撮影後、軽い運動を経て、夫々の講師の頭文字をとったA班(相澤氏)6名、K班(岸本氏)6名、M班(森屋氏)6名とフリー班7名に分かれ、それぞれの目的ゲレンデへ直行。



集合ですよ!

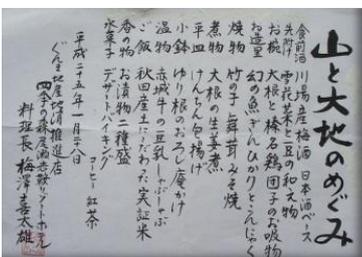
初参加の筆者は、熱血青年講師の相澤さん率いるA班に。仲間は数年ぶりに参加の萩野さんと一級レベルの熊井・野澤・萩野さんと番外の筆者の5人。

宿に近い第一ロマンスリフトのチャレンジコースへ。講師のスクール方針(先ずは楽しくありき!「いいですね、この言葉!は筆者の独り言」を聞いた後、熱血指導の開始です!

まずは足裏の重心位置を感じながら数種の斜滑降と横滑りなどお楽しみランチ「やまと」で推奨の人気メニュー「辛みそラーメン」賞味タイム、山麓のレストラン「フェスタ」でお茶タイムを挟みながら当コースとミルクキーウェイにて講師曰くスキーテク基本の基「プルークボーゲンと連動する各種の大回りのシュテム&パラレルターン?」等等区間毎に、斜度に応じテーマを設け、要点説明とデモ滑り、個々に適切なアドバイスと実技指導を受けながらの反復練習で16時頃無事スクール終了。

ミルクキーウェイ行き初ゴンドラ乗り直後に某女史ストック取り損ねドアに首はさまれるハプニング発生、緊急停止で事なきを得たが仲間曰く、投稿用「話題提供の為」で記事に。初滑りの筆者以外の仲間は皆華麗な滑りで上手い!講師デモ滑りを着実に実行で羨ましい。筆者の課題は、「前傾姿勢」「ターン前後の上下動リズム」「ターン時の腰の回転と肩の振込み」等々でした。講師の言うことは、頭じゃ理解するも体が言うことを聞かない・・・が宿題?の楽しく滑るは満点だ。

宿は、5班に分かれ、筆者はD班6人(小池・茂野・迫・竹内・塚田各氏と筆者)部屋。



各班男女大浴場「浮島」「水芭蕉」で一風呂浴びさっぱり気分で大い会場での夕食へ。今宵のメニューは、「山と大地のめぐみ: 13品目からなる和食料理」賞味とスキー談義等(M班はこぼで鍛えられた!フリー班は、国体・西山を制覇)等会話を交え2時間余の楽しい時間でした。



お開き直前、幹事の原山さん、これから「カラオケ室」へ集合ですよ！出入りはあるも15人参加、各自自慢の喉を披露し、トリは芸達者の迫氏、作詞の「マスターズ賛歌」

独唱後10時頃お開き、就寝時間に。

## 2日目（曇り一時晴れ）

筆者前傾姿勢維持の為、短めストック借りの為レンタルショップへ直行。

今日もA班はミルキーウェイゴンドラへ。直滑降からの急停止の練習、それから基本「ブルークボーゲン～各種のターンの練習」「テールをかかるとで押し込み滑らし、我慢して弧を描くように」と腰の捻りと肩の回転を意識しながらの繰り返し練習。区間毎にテーマを設けて、衝突回避場所で講師の要点説明とデモ滑りを見た後、講師が、中間点で待ち、各仲間の滑りをみて、よければ通過し次の終点まで滑り、駄目！な場合は、待ったがっかり、修正点のアドバイス。相変わらず、筆者以外の仲間は、講師のモデル滑りを難なくこなし素晴らしい。

「フェスタ」でお楽しみのカレーカツの「ランチタイム」。フリー組6人（小川・原山・茂野・田村・乗越・丸山の各氏）も隣のテーブルでランチタイム。

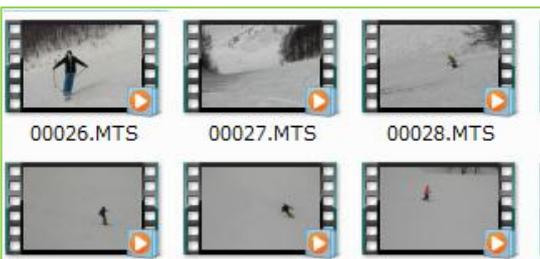


午後は、主に「西山女子国体コース」を利用して講師より各自の技量に応じて課題を与えられ、要所々々でチェックと指導を受けながらのスクールで

した。

「アルプ」で大好きな休憩タイム、間もなくやって来たK班6人は岸本講師を挟んで各自のビデオ滑りを見ながら講義タイムのようでした。

皆さん、向上心旺盛ですね！4時過ぎに上がり、風呂タイムをとり、今宵も大広間で豪華な夕食「山と大地のめぐみコース」で昨日と異なるメニュー13品目の和食料理を満喫！とコミュニケーションを楽しみました。お陰様でほぼ皆さんの名前と顔を覚えた（が忘れるのも早い）。



部屋では、塚田氏撮影のマスターズ初滑り「上越国際スキー場」参加者及び今日の「K班各位」の滑りビデオ観賞会！ 登場者毎にあれやこれやの言いたい放題の論評を聞きながらレベルの高い優雅な滑り画像を楽しみました。

茂野氏曰く「スキー上達は場数を踏まなきゃ」の言葉に年間数日のスキーだけの筆者にとって納得の

耳に残る言葉でした。四方山話を楽しみ就寝でした。

### 第3日目（曇り）

カメラが故障し、記録用写真撮れず。昨日からA班に関口講師も加わっての主に「スピード恐れず」「ターン時も顔は谷側正面向き、ターン後次のターンに素早く入れる準備動作（小回りの為）」と各自講師直々の課題のおさらいに（筆者は、長年の悪癖で難しい動作、右膝弱からの苦手な右ターン）。課題と改善方法を知り明日につながるスクールでした。某所でランチ後、各班帰り支度、午後2時50分ロビー集合、全員3時出発の全観チャーターバスに乗り込む。

連荘スキーの當間・野澤氏を降ろし、沼田インターに入る前に幹事の原山・乗越氏、例年寄る店？で車内食と飲料・アイスクリーム（女性用）買い込み、お蔭で休むことない口中と喉が潤おいスキー談義等を楽しみながら高坂 等で休憩タイムを取り午後7時過ぎ小平着、夫々の集合地からの帰宅に。全員無事が何よりでした。

A班講師の相澤・関口さん、熱心なご指導有難う御座いました。仲間の皆さん、お世話になりました。幹事、皆々様、お疲れ様でした。

他班の行動まで目配りする余裕なしで記事なく申し訳なし！

後記：筆者、マスターズ入会記念にスキー板、ウェアー、ゴーグル、ストック等を新調！

### 編集者のカメラで撮ったのを追加



**見てくれ！この天気！ ミテクレもいい！この笑顔！**





「山椒は小粒でもピリリと辛い。」2013年初めて幹事になり、月例の役員会に参加するようになっての第一印象であった。役員会の活動は大半の方は経験済みで驚きはないかもしれませんが、この思いをお伝えしたくて今回のツアー報告は役員会に提出の資料をそのまま載せて頂き、ツアー記とさせて頂きました（報告はツアー終了後の2/20）。面白可笑しい旅行記ではなく、無味乾燥の事務連絡の類いですが、頭中花を添えてお読み頂ければ幸甚です。

(1) 実施状況

1. 概況

大荒れの白馬五竜、上天気の白馬八方、中央道通行止めで関越道廻りの帰路と振幅の大きなツアーで、忘れ難い思い出を残した行事となった。全員怪我もなく無事帰京でき安堵しているところです。

2月12日(火) 15時花小金井駅前。集合早く、予定時刻より早めの出発。スキー板は後部席、バック類は下のトランクへと後席のボランティアの方々の手助けでスムーズな積み込み。リボンによる区分けは分かり易い。（\*スキー板は必ず袋詰めを！エッジでの怪我防止のため。）

八王子 IC より中央道に入るが、藤野Pで臨時のトイレ休憩を取る。（花小金井駅前から2時間近い。）笹子トンネルの復旧工事も2/8には完了、車はスム

**風速40m!で山頂レストランに避難 することなく昼飯**



(´・\_・´)

ズに流れる。双葉SAで夕食休憩(30分)。梓川SAでトイレ休憩(10分)。安曇野ICから一般道。雪もなく、宿には早く着く(8:35) 宿舎到着が早いのは後が楽。入浴後各部屋での懇親。竹内さん塚田さんは先着し、部屋で休憩中。2月13日(水)朝食7時。幹事より本日の予定連絡。8:45シャトルバス(無料・事前予約)で白馬五竜スキー場へ。強風のため、上のリフトは動かず、ゴンドラも9:30頃より運行。2班に分れ、森屋班は1回ゴンドラに乗り、アルプス平ゲレンデからとおみゲレンデへ。強風のため「HAKUBA47」への滑走は禁止。この後、2度目のゴンドラは強風(30~40m)で揺れるゴンドラに閉じ込められること1時間。山頂のレストランで待機すること3時間。全員が合流。この間、昼食も取り、ひたすらゴンドラの再開を待つ。滑走は禁止。ゴンドラで下りるのみ。帰りのシャトルバス3:45。宿まで15~20分。夕食6時。乾杯のビールのみ会費より支出。あとは各人の負担。大変な1日であった。



(´▽´)

**3時間後 ゴンドラで下ろされた**

ズに流れる。双葉SAで夕食休憩(30分)。梓川SAでトイレ休憩(10分)。安曇野ICから一般道。雪もなく、宿には早く着く(8:35) 宿舎到着が早いのは後が楽。入浴後各部屋での懇親。竹内さん塚田さんは先着し、部屋で休憩中。2月13日(水)朝食7時。幹事より本日の予定連絡。8:45シャトルバス(無料・事前予約)で白馬五竜スキー場へ。強風のため、上のリフトは動かず、ゴンドラも9:30頃より運行。2班に分れ、森屋班は1回ゴンドラに乗り、アルプス平ゲレンデからとおみゲレンデへ。強風のため「HAKUBA47」への滑走は禁止。この後、2度目のゴンドラは強風(30~40m)で揺れるゴンドラに閉じ込められること1時間。山頂のレストランで待機すること3時間。全員が合流。この間、昼食も取り、ひたすらゴンドラの再開を待つ。滑走は禁止。ゴンドラで下りるのみ。帰りのシャトルバス3:45。宿まで15~20分。夕食6時。乾杯のビールのみ会費より支出。あとは各人の負担。大変な1日であった。



(^o^)



2日目は天気良く 風もなく 別世界

2月14日(木)天候回復。山頂まで望める。白馬八方尾根で滑る。9:30山頂で集合写真。周囲の白雪の山々の眺望が素晴らしい。昼食「ロンドール」で11:30からを予約。卓上にビール・ワインが並び、雪よく、天気良くごきげんな1日。昨日とは雲泥の差。4時前後宿へ。夕食は和室で懇親会。終了後、幹事部屋でビデオの上映。

2月15日(金)最終日。荷作りの後、荷物は1室に。昼食は各自。宿出発15時。集合は14:50。12:30には全員帰館。入浴着替え後昼食。迎いのバス1時間前には到着。運転手関さんよりの重要な

屋間から飲めるのが嬉しいんだ o(^▽^)o さあ、さあ!

報告一雪のため中央道チェーン規制で渋滞中。帰路は通行止めの恐れ一。昼食中、早めに出発することを確認(14:30予定)。帰路、松本IC通過後、大渋滞。通行止めとなる。運転手関さんの忠告で塩尻ICで下り線に廻り、関越道で帰ることとなる。塩尻ICの管理事務所でトイレ借用。梓川SAで飲食物購入、



見下ろしても 見上げても 見とれるね o(^▽^)o



車中での夕食。以後、停車はトイレ休憩のみ(甘楽Pで10分。三好SAで15分)所沢ICから花小金井駅へ。JR東所沢駅前で竹村さん下車。車中でスキー板の積み替え。9:30無事、駅に帰着。全観車庫10時。緊急事態であったが、運転手の関さんの適切な処置で無事帰還。感謝。

## 2. 来年度の仮予約

2114年1月21日(火)半  
白～1月24日(金) 1/20(月)は  
予約済み

参考初滑り1/7(火)～9(木)

尾瀬岩鞍 2/3(月)～5(水)

## 3. 参加者氏名

女性4名 飯島 乗越 森屋 八木

男性13名 小池 茂野 田村 迫 原

山 樋口 乗越 真杉 丸山 森屋 竹

内(会友) 竹村(会友) 塚田(会友)

## 4. その他

- ・宿は温泉で入浴は随時。帰館後2時から入浴の処、最終日は12時頃には入れるように配慮。リフト券(2日分)本年も貸与。ゲレンデまで10分程歩くが、スキー板の軽トラ搬送は依頼せず。宿泊費8400円入湯税150円は妥当か。
- ・返還金2000円。頭初、参加人数12名では赤字の可能性あり、17名で可能。返還は行事の終了直前が良い。早目に返し、緊急事態で再徴収は拙速であった。\*緊急事態への対応策の必要あり。
- ・乗越登志子さん2/15(金)休養(前日転倒の痛みのため)。
- ・ルートについては再考も必要か。現行での休憩も再考の要あり。

## 5. 会計報告

「総会」で御報告のもの(省略)。

### (2) ビデオ上映 2/14(木)夜8:00～9:00

「ツアー報告」に一興を添えては?という乗越さんの提案で、ツアー中のビデオ撮りと上映会を企画。撮影はセーター姿で腰にビデオを下げて滑る会友の塚田さん。快くお引受け頂いた。3日間の全員の滑走姿をという注文で上映までお願いしてしまいました。参加の方々、幹事部屋に集まって頂き、ワイン等の差し入れもあり、和気あいあいの上映会。各人感想を出し合い、幹事がまとめて報告という手筈の処、幹事酌量の上、耳遠くメモを取るも意味不明。

「写してもらうのはイイね、自分の姿が分かる。」「コレ、僕?」「～さんうまいネー。」などの片言のみ。3日間のビデオ撮りをして頂いた塚田さん、ツアー参加の皆様、ありがとうございました。

夜も飲めるのが嬉しいんだ o(^▽^)o さあ、さあ!



いつもの宴会場でいつも最後のショット o(^▽^)o 満足、満足



## 志賀高原ツアーに参加して 2013/2/26(火)～3/1(金)

白田 祐子



直前になって、幹事の樋口さんにご無理をお願いして参加させていただいた今回のツアー。

尾瀬岩鞍のスクールで今シーズンはおしまい・・・と諦めていましたので、うれしい気持ちで当日を待ちました。

7年前？第1回目の志賀高原ツアーに一度参加させて頂いて以来でしたので期待は膨らみます。

2月26日(1日目)

志賀高原ツアーのバスは、まだ明るいうちの午後3時に花小金井駅前からスタート。これは私にとって初めての事。私の乗り場「全観」は3時45分予定との連絡を頂く。予定より少し早めにバスが到着し、小川先生をはじめ野澤・小池・八木さんと共にここで乗り込む。初すべり、スクール等今まで参加したツアーは、「全観」からスタートなので、いつも空っぽの車内に乗り込んでいました。しかし今回はバスに一步足を踏み入れた時、すでに乗車されている方々の熱気に迎えられて一瞬怯みそうになる。でも座席に腰を下ろすと、もうホットなマスターズワールドの一員。さあ志賀高原に向かって出発！

「ホテル ホウルス志賀高原」は、志賀ツアー初回幹事の田村さんがネットで見つめられたと伺いました。ホテルを一步出るとそこはゲレンデというこの上なくすばらしい立地条件、変化に富んだ広い志賀高原を存分に楽しむことが出来るホテルということで大好評。以来ずーっと同じホテル利用なのですね。

マスターズならでの3時出発のお陰でホテルについてから、ゆっくりと温泉に入り早めに就寝出来ました。なんと言うゼイタク！



2月27日(2日目)

たっぷりの睡眠で元気一杯のお目覚め。お部屋でテレビ体操を行ったり朝湯に入ったりゆっくりと朝食前のひと時を過ごす。朝食をとっていると「アラッ！見て猿、猿よ。」と言われ、窓の外を見るとホテルの裏庭の木々の枝やバルコニーに沢山の猿が思い思いの格好で取り付いているではありませんか。「ウァー、こんなところまで大挙して出てくるなん

て・・・」人間に住みかを追われて人里に下りて来るしか生きる道が無くなったのか、観光客が気まぐれに与えたエサの味が忘れられず山を下りてきてしまったのか。いずれにしても複雑な気持ちになりました。

9時ゲレンデ集合。裏出口からスキー板を履いてチケット売り場まで一滑りで楽々！このラクチンさがたまらない魅力ですねー。幹事さんからの諸注意、準備体操、記念撮影を行ってから各班に分かれて一日行動する。茂野さん達のがんがんグループ。森屋さんをリーダーとするしっかり滑りこむグループ。田村さんたちの余裕綽綽グループ。相澤さんをリーダーとする、時々レッスンもして頂きたいグループと大まかに分かれる。私は時々レッスンもしていただきたいグループに入れていただきました。石川さん、沢渡さんたちも加わって下さいました。午前中は一の瀬ゲレンデの迂回コースで足慣らしした後少し斜度のきついバーンでプルークボーゲンのおさらいをしながら小回りの練習をしました。雪質もいいし、空いていましたので何度も練習をしました。それからタンネの森を下って少し早めの昼食をとりました。食後くつろいでいると急ににぎやかな音楽が鳴り響いたので、



ビックリしてあたりを見回すと、レストランの壁に掛かった「からくり時計」の人形たちが元気に12時を知らせる音楽を演奏していました。随分沢山滑ったように思っていました。がまだ12時！

**食べるのは拒まず 飲むのも拒まず カラム人なし 私たち 品行方正**

という感じでした。午後は「東館からジャイアント」方面を目指すことになりました。東館の細い廊下のような急ごしらえの連絡道を滑って降りるとき、7年前に来た時は、確か急で狭くて滑りにくく、プルークでズリズリと降りたように記憶していましたが、今回は曲がりなりにも小回りで降りることが出来ました。ちょっとうれしい気持ちになりました。



ぶな平では「広く見通しがいいので皆さん自由に滑ってください」と相澤さんに言われ、緩斜面なので安心してスピードを出して滑ろう・・・と思って滑り始めたのですが、何故か雪面に板が張り付いたようでつんのめりそうになるのです。前を滑られる迫さんの滑りも

**漆田さんの友達 おとなしい岡部さん 私たちと 同じ**



なんか様子が変わ。途中でみんな一度止まって「こんなに滑らないのはかなり標高が下がっていて雪が緩んでいるからだ。ジャイアント方面に行くには止めよう。あそこへ行くにはリフト乗り場まで勢いを付けて滑り込まないといけないのに、こんな滑らない雪だと無理。ジャイアントは諦めて一の瀬に帰りましょう・・・」ということになりました。そうこ



ちょっと～! 怪しい二人は飲み過ぎ おとなしくナイ?

こまで



まあ、いいか、そのくらいなら、それにしても いい笑顔だね



うするうちにだんだん視界が悪くなってきて高天原ゲレンデにたどり着いた時には前をいく人を見失わないようにするので精一杯。あの有名なコブ斜面が不思議なほど平らに見え、もしかすると平らなのかしら・・・と錯覚しそうでした。「平らに見えるね」と皆さん口々につぶやくも結局用心して脇の迂回路を降りる。視界がまったく利かず前の方のウエアを目印に必死で滑り下りやっと「タンネの森」ヘトラバースする地点へ到着。そ

下りるとだんだん明るくなってゲレンデの状態も把握することができる。明るくなると気持ちに余裕が出て、「コブに気をつけてくださいよ」と注意された直後つかかかって転んだ人をみんなニコニコ笑って待っています。嘘のように明るくなったところで、午前中練習した一の瀬のバーンでもう一度やりましょう。ということになる。午前と違ってボーダー、スキーヤーが次々と入ってくる。気をつけて小回りの練習をした。夕食が5:30と早めであることと初日で疲れているでしょうからと言うことで3時過ぎに解散。熊井さんと萩野さんともう少し滑りましょうと3人でリフトに乗り2本ほど滑ったときリフト乗り場で、河西さんが「さっき相澤さんがぶつけられたの・・・でも運良く迫さんが来てくださったのでサポートをお願いし、今パトロールの詰め所一緒に行って貰っているの」と心配顔。後で伺ったところでは講習中の高校生をよけきれなかったスキーヤーが相澤さんにぶつかってしまったようです。スキーパンツがエッジで切れ、下肢を強く打撲された模様。診療所での所見ではおそらく骨折はして無いだろうとのこと。まあまあ大事に至らなくて良かったです。夕食は懇親会もかねていて皆さんくつろいでワインや焼酎のおかわりも忙しく大いに賑やかに盛り上がり



カンパ～イ! これで何回乾杯したかな? ひいふうみい・・・



ました。さんざん飲んで食べておしゃべりして、いっぱい笑って最後のメは竹内さんの「一本メ」。民謡で鍛えた艶のある「イヨー」の音頭で皆の「ポン!」ツアー参加者の心が一つ

になった瞬間です。その見事な一本締めは何処からとも無く「ほーっ」と小さなどよめきが起きた。食堂の一角に陣取ったオーストラリア人? 達からのもの。始めて目にした耳にした日本の習慣に感嘆されたのでしょね。漆田夫人によると「彼らはオーストラリアか

らスキーに来ていて、ここはもう4回目だと言ってたわよ」とのこと。夕食後一休みしてから幹事さんたちのお部屋にて2次会。足を痛められた相澤さんや早寝を常とされる野澤さんまでも来てくださって全員参加の大盛況。お部屋はギュウ詰め状態。皆さんの笑顔はただいま青春まっただ中！という感じです。そしてその場で早々と4/8に小金井公園で桜の鑑賞を行い、その後茂野さんの私設図書館「史林館」にてご講義を頂いた後、宴会という盛沢山かつ贅沢な「お花見企画」も発表されました。なんという乗りの良さ！

2月28日(3日目)

昨日の事故で心配された相澤さんの脚部もなんとか最悪の状態を免れ、滑る事が出来そうで皆ほっとする。昨日の相澤グループは石川班と相澤・沢渡班に分かれて行動することになる。素晴らしいお天気なので「焼額方面に行きましょう。」という事になり、プルークの確認をした後直ぐに焼額を目指す。午前中は相澤さんの御指導を交えかなり丁寧に滑る。午後は沢渡さんにリーダーがバトンタッチされました。キラキラした早春の日差しと快い風、私たち以外は誰も居ないゲレンデ、雪質も斜度も程良い最高のコンディション。「直滑降をイメージして縦長に大回りで滑ってみましょう」と模範を示して沢渡さんがヒラリと滑って行かれました。「ソレっ」とばかりに私たちも経験したことが無いぐらいのスピードであとに続きました。風を切って夢中で滑り続けました。スリル満点！午前中に行った丁寧な練習内容はもう何処かに吹っ飛んでしまったようです。長い距離をスピードに乗って何本も滑りました。存分に楽しんで最後は一の瀬のゲレンデ上部で小回りの練習。あろうことか今回初めて滑るバーンでのビデオ撮影！さっきまでの元気は何処へやら。急に神妙になってソロソロと滑る。そしてそのままホテルへと滑り込む。長い一日が無事終わりました。お疲れ様。満足の笑顔がこぼれます。

夕食後は食堂で思い思いの席で歓談。楽しいお話は尽きません。沢渡さんが撮影して下さった映像を見ながら講評して頂けるのでお部屋に戻る。お風呂・お酒・食事の後なのでかなり「ぼんやり」状態でしたので自分自身の映像を見せられても何か他人事のように見えてしまう。快い疲れに皆満足満足で早めに就寝。

3月1日(4日目)

お部屋でテレビ体操を終えてゆっくりして居ると、ドア越しに「森屋会長いらっしゃいますか？」と迫さんの緊迫した声。私たちは「？」食堂に降りて行くと「小川先生が倒れられたようだ」と誰かが話していらっしゃいました。「ああ、だから迫さんが森屋会長を探していらっしゃったんだわ」と思いました。しばらくして救急車が来て森屋会長の付き添いで病院に搬送されました。皆



日本で最初のリフト 有名な丸池Aコース

32度のコブ斜面 滑ったの？下りたの？



一の瀬から寺子屋へ行く途中 白い映える木

心配するもどうすることも出来ず、ホテルに待機される野澤さん以外は予定通りスキーに出かけることになった。



寺子屋で撮っている人を撮る 黒い変な人

私たちの相澤班は昨日と同じ「焼額エリア」で滑ることになる。途中から相澤・沢渡の2班に分かれて滑る。暫くして「強風のため第1ゴンドラが止まった様だ・・・」との情報。帰りのバス時間を考えると、ここは余裕を持って一の瀬に帰っておいた方がいいでしょう。という事で動いている第2ゴンドラを利用して一の瀬方面に向かう事になる。山頂付近で少し木々の枝が揺れて

いるようにしか見えなかったのに、強風だなんて・・・ 残念です。

ホテルに帰って昼食をとっていましたが、一足先にホテルに帰ってすっかりお帰り支度を調べられた河西さんにお会いする。バスと電車を乗り継いで南アルプス市の御自宅へ直接お帰りになるそうです。来シーズンの再会を約束してお別れする。ホテル待機していらした野澤さんが「小川さん、今日一緒に帰れるよ。帰りのバスで病院に迎えに寄る事になったよ・・・。それにしても大した事なくて良かったよ・・・」とホッとした表情でお知らせ下さった。バスは予定より早めの2時15分にホテルを出発。来られる時は別便だった相澤さん樋口さんも帰りはご一緒。「北信総合病院」で診察を受けておられた小川先生をお迎えすべく中野市に向かう。病院に到着後、私たちはバスの中で待っていましたが、野澤さんと丸山さんは、小川先生の洋服とか靴等を持って病院へお迎えに行かれました。そば降る雨の中を病院の通用口へと小走りに向かわれる後ろ姿を見て胸がキュンとなりました。

「お友達はいいなー」

暫くして、朝からずっと付き添われていた森屋会長と共にしっかりと足取りでバスに乗り込まれた小川先生のお姿を確認して車内にホッとした空気が流れる。検査結果も異常なかったそうで全員そろって帰京出来ることになり本当に良かったです。

今シーズン最後のツアーはハプニングも有りましたが、幸いにも大事に至ることなく皆さんがみごとな連携プレーで対処され、かえって結束が深まったように感じたのは私だけでしょうか。

今回は志賀高原という広いスキーエリアのせいか、マスターズの他のグルー

プの方たちとの合流・食事やお茶時の出会いは全く有りませんでした。皆様それぞれに満喫されたことでしょうか。幹事の皆様本当にありがとうございました。

このツアーの一週間後に小平スキー連盟行事「皆で滑ろうスキーツアー、志賀高原」が開催され、その中で行われたバッジテストで八木さんと樋口さんがめでたく一級に合格されました。テスト会場はあの「ダイヤモンドゲレンデ」！御努力がみごとに実りました。おめでとうございます！！



1級を見事に合格した樋口さん 赤いあっぱれ男



## 小金井公園の花見、史林館見学、懇親会



漆田 喜久

4月8日は例年ならばこの頃に行われる小金井公園の桜祭りの時期で、満開のお花見になるはずでした、

3月も末になった頃、各地の桜は満開が1週間以上早まっている状態なので、我々のお花見も遅すぎにならないかと心配になりました

お花見ガイド役は公園が前庭の茂野さん 愛犬を連れながら



が、「花は無くても団子はある」と幹事の原山さんの言葉で、予定どおりに4月8日に実施となりました。

まずは資料をもらって フン フン

午後4時、江戸東京たてもの園の前に10人が集まりました。たてもの園前広場は染井吉野が植えられていて、いつもならば沢山のグループが陣取っているはずですが、花は殆どおしまいでした。お彼岸から20日ほどにもなるのでお日様もかなり高く、快晴で透明度が良い午後なので斜めの陽射しに、青空を背景にした桜の花の薄いピンクが美しく、八重咲きの濃い色も鮮やかでした。

花の名前に疎い私は染井吉野、山桜、程度しか頭にありませんが、公園の資料によると、さくら(亜種)には自生の11種があり、山桜、大島桜、などはそれぞれ1つの種であって、染井吉野は江戸彼岸桜と大島桜との種間雑種で、江戸染井村の植木屋が栽培したものとの事です。

それでは この白い花の 名前は？ 芳香が漂っています



たてもの園から西側の地域は「桜の園Aブロック、同Bブロック」と呼

ピンポン！ どうぞ 大島桜系の駿河台句です



続いて この濃紅色の 八重桜は？

ばれ、約35種、350本ほどが植えられています。昭和29年に都立公園となって60年近く過ぎ、毎年10本ほど枯死するようで、維持管理に最近の5年で50本の若木が植えられました。大木に混ざって倒れないように支えられた細い木があちこちに見られ、品種の名札が付けられています。花の品種の区別は判らなくても、名札から想像が膨らみます。「一葉」(イハ)という名前は、樋口一葉を想いますが、違うようです。八重咲きで開花が遅いので見ごろでした。桜の園の北の区域には山桜も沢山見られます。

さて 閑山か？ 御車返かな？ どうでしょうか？

「梅護寺数珠掛桜」(ハイゴジジュズカザクラ) 花弁が沢山ある菊咲きで垂れ下がる、原木は新潟県京ヶ瀬村の梅護寺に在り、親鸞上人が枝に数珠を掛けて仏法を説いたところ、花が連なり数珠状に咲くようになった、という伝説に由来するそうです。「楊貴妃」(ヨウキ) 唐の玄宗の夫人で豊麗な美女を想い



暖かい夕陽を受けながら のんびり 歩く

ますが、未だ植えられて間もないようで、支えの着いた細い木でした。「鬱金」(ウコン) 薄い若草色の花です、これも近年植えられた様子でした。ウコンとはショウガの仲間です。インドでは盛んに栽培されていて、50cmほどの幅広の葉を持ち、淡緑色の葉の間に黄色の花をつける。根は黄色の色素を含み、薬、染料にする。インドではカレー粉の原料になるとの事です。その他いろいろと茂野さんから説明を受けながら歩き、最後に公園の東の端近くの「大島桜」(オシマザクラ)を眺めました。この木は関東でも屈指の大木で、高さ13m、幹の周りは3.66m、傘状の枝張は20mもあり、日立の商業ビルにある大木を思い出します。伊豆大島に多いのでこの名があり、白色のものが多く花弁も大きく芳香があり、桜餅を包む葉に用いられる、と説明の立て札に記されていました。

そこから史林館に移動して図書館の見学でした。史林館は茂野さんのお住まいのごく近くの敷地に、長年にわたって集めた本や資料を収納するために2005年に建てたもので、1階は書斎と書庫、2階は2つの和室の集会室です。詳細はマスターズ通信2009年第18号に在ります。蔵書は約2万冊とか、やはり専門の歴史関係のものが多いですが、いろいろな分野の物がありました。また長年にわたるスクラップブックも書棚の大きなスペースを占めています。スキー技術のビデオも見受けました。

その後の懇親会には、困難な手術を乗り越えて元気になった小林さんも参加して合計12名でした。「気力でガンを追いつ



花より ダンナが 気になるなあ



ぐーっと見たら 茂野「史林館」の前に出ました

す、ガンには負けない」と言う気持が最も大きな力になると聞きました。

ちなみに今シーズンはスキーに3回行かれたとの事、治療や手術がスキーの計画とち合わなければもっと行けた、と言う思いが在るようでした。

2013年のスキーシーズンは当クラブから3名（樋口さん、八木さん、和合さん）の1級合格があり、そのお祝いも兼ねていました。合格した皆さんは2級取得から3年から12年と努力を重ねた結果でした。SAJのバッジテストは勝負で決まる事ではなく、検定員が求める「型」を「滑りの中で」見せなければなりません。バッジテストでは滑り出す前には、ああして、こうして、と思っ

「史林館」の広い2階で これからが本番？

注文してあったお寿司を自転車で運び入れ

ビールや酒も運び入れて



ラジオ波の手術後 いつもの元気な 小林さんも入り

「ガンに負けずに付き合う、スキーにも付き合う」と、付き合っ

て飲んでいました

樋口さんの1級合格祝いも兼ねていたので

良かったです小林さん！おめでとう樋口さん！



# 山梨県・春のプチ旅行記…

## ハイジの村と大柳川溪谷など



乗越 皓司

昨年福島県秋の一泊旅行中止の結果、以前行っていた春期旅行を復活して山梨県プチ旅行が計画され、南アルプス在住の河西さんに取り寄せてもらった県の観光案内パンフレットなどを参考に、目的地の選定が始まった。参加者の希望として、山梨県有数の絶景地昇仙峡、左党にはたまらない登美の丘ワイナリー、直近のテレビで紹介された外国人向けのサイクリングコースなど、いくつもの声が出ました。



しかし、出発前に目的地を絞り切れなかったのが当日現地到着後に相談するという、行き当たりばったりの珍道中となりました。4月18日(木)朝6時に小平駅集合、森屋会長運転の7人乗りレンタカーで出発、参加者の内訳が女性4名と男性3名、3名と夫婦2組の4人、あるいはJSA指導員2名・1級2名・3級3名など、バラエティ豊かなグループツアーとなりました。

レンタカーで着くと土手にツクシが

入口の桜は満開 朝から天気もよし!

絶好の行楽日和(次の日が最悪の寒の戻り)となった早朝ドライブは、雪を頂いた峰々の眺望と全員参加の車中談笑で盛り上がっていました。最初の休憩地、双葉SAでパンフレットを見ながら行く先の相談となるが、ここは既に何回も行った、バス旅行でないためにアルコールはダメ、二人乗り自転車がレンタルできない等々、各人それぞれの制約条件があ



るのでなかなか決まりません。私にはよく分からなかったが、ようやく、自分たちの娘が幼い頃のテレビ人気アニメ「アルプスの少女ハイジ」(6月現在、BS3chで再放送中)が思い起こされる、「ハイジの村」が最初の行き先に落ち着きました。ここは10haの敷地に50万本の花々を栽培している県営フラワーパークであると同時に

アルプスの少女 ハイジ テレビでよく見ていました

に、ハイジ物語の世界をファンタジックに楽しませてくれる、花と星のテーマビレッジです。9時開園を誰も知らないまま急ぎ現地に8時半到着、ちらほらとくる従業員たちが「おはようございます、開園まで今しばらくお待ちください」と急ぎ足で通り過ぎて行き、「お客さんあるのかなあ」と心配、ようやく一組の老夫婦が来て同じように開園を待っていた。入り口前の駐車場でぶらぶらしていると、高さ5、6メートルの奇妙な三角形をした鉄骨の建造物が目に留まり、その塔の正体を風車、風見鶏、子供の遊具などと皆で推測したが、

空想能力の欠如が著しい高齢者には結局帰る間際に受付で聞くまで分からなかった。(正解はクリスマスツリーに飾り立てられる建造物でした)

入園料 500 円を払って受付の建物から園内に入ると、村の教会、ハイジのテーマ館、レストランやカフェ、食品館などレンガ作り様の建物に取り囲まれた中庭に出て、皆さんは最初に展望塔に登ってハイジビレッジ全体の様子を見渡します。私



**園内にはチューリップやパンジー 遠くには雪の南アルプス**

は一人ミュージアムでハイジ物語のおさらい、中庭に出ると塔の上から皆さんに呼びかけられ、エレベーター嫌いゆえに階段を駆け上って最上階へ。4月の陽光に包まれた展望塔からは、満開のチューリップやパンジーの花壇が織りなす原色鮮やかなモザイク模様、そして遅咲きの御殿場桜や新緑鮮やかな木々の輝きが眼下に広がり、はるか正面西方には甲斐駒ヶ岳や鳳凰三山（その上には北岳の頂が見える）、右手北西には特徴的な八ヶ岳の主峰赤岳（残念ながら富士山は見えません）がこの日一押し撮影ポイントとなりました。展望塔を降りてチューリップやパンジーの香り溢れる（特に黄色が強烈）パノラマ花壇を満喫していると、村のセールポイントであるハイジ・ウェディングの感動が想像されます。バラの温室、花市場や食品館での買い物、結局乗らなかった可愛いロードトレイン「ハイジ号」など、ゆっくり探索してちょうど空腹となり園内のレストラン・ボルケーノで昼食、私はスイス直輸入品を

**おとぎの国に踏み入れ 女性ハイジ気分 ♪ルンルルン♪**



**男性 ハイ爺?気分で ♪ルンルルン♪**

は一人ミュージアムでハイジ物語のおさらい、中庭に出ると塔の上から皆さんに呼びかけられ、エレベーター嫌いゆえに階段を駆け上って最上階へ。4月の陽光に包まれた展望塔からは、満開のチューリップやパンジーの花壇が織りなす原色鮮やかなモザイク模様、そして遅咲きの御殿場桜や新緑鮮やかな木々の輝きが眼下に広がり、はるか正面西方には甲斐駒ヶ岳や鳳凰三山（その上には北岳の頂が見える）、右手北西には特徴的な八ヶ岳の主峰赤岳（残念ながら富士山は見えません）がこの日一押し撮影ポイントとなりました。展望塔を降りてチューリップやパンジーの香り溢れる（特に黄色が強烈）パノラマ花壇を満喫していると、村のセールポイントであるハイジ・ウェディングの感動が想像されます。バラの温室、花市場や食品館での買い物、結局乗らなかった可愛いロードトレイン「ハイジ号」など、ゆっくり探索してちょうど空腹となり園内のレストラン・ボルケーノで昼食、私はスイス直輸入品を



尖った塔に登り 見渡すと 丘に一杯に咲く花や 北岳なども見渡せる

用いたチーズフォンデュに舌鼓です。

ここで一寸旅行を一休みして、私がハイジ村で見たクマバチの話を一席。クマバチは私の個人的奇怪なペット、アシナガバチ(毎年4、5個の巣を自宅のサンルームで繁殖、私

の最重要な仕事は天敵スズメバチの排除です)の仲間であり、その行動生態は子供の時から、また東南アジア・スマトラ調査以来興味を持っていました。満開の桜の樹の風下側をクマバチのオス一匹が上から下へ、下から上へと同じコースを何回も飛んではしばらく休み、また同じ動きを繰り返しています。たくさんの場所でこのような個体を見たが、これはミツバチなどハナバチが行う蜜・花粉採集ではなく、越冬後の今の時期にメスのよく来る採食場所などにおいてオスが行う交尾ナワバリの繁殖行動です。単独生活者のハナバチ類であるクマバチのオスたちは、メスを待ち伏せしているにもかかわらず、私にはメスの接近が全く観察できず(私に見えなかっただけで、彼らは見つけて目的を果たしていたかもしれませんが)、競争が激しく大変だなあと感じました。

次の目的地である大柳川渓谷は、富士川街道から直角に曲がって遡る大柳川沿いにあり、吊り橋のスリルが奇岩や滝の渓谷美に彩りを添えています。紅葉の時期と同様に4月の新緑もまた素晴らしく、様々な樹種の多彩な色合いが目に優しく鮮やかで、溪流にかかる大小10の吊り橋、中でも途中にテラスのある竜神橋からの眺めが面白い。のんびり歩いて1



芽吹き始めた木々 柔らかい陽射し 足取り軽く 夢のハイジの村の 春でした

時間の探索コースを終えた後は“つくたべかん”(作って食べて感じる、の意味、伝統料理の体験料理教室もある)で休憩、当日は定休日でしたが玄関にいた方に中を使用させてもらいました。運動不足気味のガンガン組である私は、いつものごとく一人別行動、1時間程のチャレンジ滝めぐりコースをプラスしました。初めにここだと言われた山道のコースは、滝に出ることはなくて本当の山道だったので、これがチャレンジでは大変とあわてて引き返しました。

富士五湖を回って帰る途中にある道の駅“しもべ”で休憩、そしてパノラマラインのドライブでは世界遺産に決まった富士山の雄姿を目前に眺めることが出来、下車した皆さんのお気に入りの被写体となりました。ところで私は、中央道や関越道のドライブで著名な山々を見つけると、遠くからの姿形の美しさと共に、その頂上までの道のりが山行時の記憶としていつも思い起こされます。特に最近10年の冬山経験から、雪を頂いた富士山、八ヶ岳、アルプスなどを見ると、寒さと重いリュックと銀世界、時には強風と前が見えない猛吹雪など、高速道やスキー場からとは別世界の景色を感じるのです。その様な私の富士山では、冬季12月に早暁5時から12時間かけて登頂・下山した翌日、河口湖近くの温泉“紅富士の湯”で疲れた体を癒しながら、昨日アイゼンで歩いたアイスバーンの稜線を仰ぎ見る時、雪山の感覚と遠景とが結びついた印象的な経験を持ちました。さて、多少疲れ



の残る車中でしたが、7時過ぎに小平帰着、レンタル期限の8時に間に合う様全員で夕食を囲み、大満足のプチ旅行となりました。ドライバーの森屋会長、ご苦労様でした。皆様ありがとうございました。

スキーツアーのみならずこの様な個別行事に対しても近年参加者が減少しているが、その一因は会員の高年齢化に伴って生じる様々な問題（自身の健康や家族関係など）であり、この傾向は今後も続くでしょう。春秋の旅行は会員間の親睦とスキー時の体力作りのために貴重な

**次に 南アルプス市を過ぎて南へ 大柳川深谷**

機会として計画されており、今回の行程もゆっくりグループからガンガン組まで

全員が楽しめるものでした。私個人としては、チャレンジ滝めぐりの追加以外にも、ハイジ村の展望塔への階段歩き、道の駅にある風見鶏モニュメントの高台への早足登頂など、一人余分に動き回っていました。マスターズの主目的は言うまでもなくスキーを楽しむことですが、そのためにもスキー技術の向上、会員間の親睦、そして各人の健康維持が重要な側面となります。今までマスターズに於いてあまり注目・意識されませんでした。最後の健康面について触れるなら、よく言われることですが、“健康だからスキーができる”ではなく、“スキーをするから健康になる”（“旅行に行くから健康になる”）のではありませんか。個人的には健康問題や家庭の事情などいろいろありましたが、スキーツアーと同様に今回の行事にも参加できた喜びをかみしめているところです。昨年役員になって改めて感じるのですが、近年スキーツアーのみならず各行事の計画はゆっくりグループからガンガン組まで、全員満足できるよう役員の皆様が熟慮して立案されており（私はどのような条件・やり方でも比較的平気なので、以前はあまり気にしなかった）、次の機会には多くの皆様が参加されるようお願いします。



**深流にいくつもの吊り橋が掛かり 新緑の深谷美を歩いた ♪ルンルン♪**

## 秋の一泊旅行（東日本大震災応援旅行）の顛末



丸山 弘

# 絆

恒例の秋の一泊旅行は一昨年（2011年）の東日本大震災の後遺症に苦しんでいる福島県の復興を応援したい、との狙いから県南のいわき地方を巡る旅を10月24・25日に実施された。

集まったのは男女それぞれ4人合計8人だった。生憎台風26号、27号が発生し日本への接近が懸念され、最悪の場合は中止もありうると大変心配だったが、幸い日頃行いの良い当クラブの行事とあって、風雨は予想外に少なく旅行は当初の計画通り恙無く実施された。



新宿から専用バスでハワイアンズへ



初日はスパリゾートハワイアンズの送迎バスで午前9時半に新宿を出発、12時半に福島県いわき市のホテルハワイアンズへ到着。吃驚したのはホテルのロビーが受付を待つ観光客でごった返していたこと。受付終了まで20分以上待たされた。昼時とあってレストランも混雑しており席を確保するまでずいぶん時間が掛った。

ところで、当ホテルは23年の大震災で建物を始め売り物の大きなプール等の震災被害と原発事故による風評被害のダブルパンチを受け全面的な営業中止に追い込まれた。その後被害の修復を進めるかたわら、5月からお抱えのフラガール全国キャラバンを開始させたことが新聞紙上を賑わせていたことも懐かしく思い出される。

震災半年余の10月1日部分オープンによる営業を再開。24年2月8日には全館営業再開、に震災前から着工していた新ホテル「モノリスタワー（個人客中心で収容人員500人）」の

営業も開始、この結果総収容人員は2000人に達している。再開後の営業は順調で特に今年はアベノミックスの効果もあってか夏休み以降首都圏主体の客で連日全館満室、特にモノリスタワーは半年先まで予約できているそうである。



安いなりの料理でも個室で宴会を楽しんだ



——しかし、奈良時代に開湯したといわれる地元のいわき湯本温泉街（旅館数約30軒）は風評被害もあって一般客は少なく、全国から集められた除染作業員で漸く営業をしているのが実情で温泉街に賑わいは戻っていない由。

因みに、当ホテル好調の背景は首都圏各地（新宿、立川、横浜、町田等）への送迎バス派遣、大リゾートプール、フラガールのダンス（昼、夜各1回・1時間）、大露天風呂等温浴施設の充実、リーズナブルな価格設定などの営業努力に加え除染作業員で一杯の湯本温泉を敬遠した観光客が少なからず宿泊していることも寄与している模様。

私達一行も温泉はもちろん飲み放題の夕食と歓談、ホテル呼び物の華麗なフラダンス・ファイヤーナイフダンス等を十分楽しんだ。



震災後の復興を祈って・・・明るいショー！

ホテルチェックイン後湯本温泉街にある「いわき市石炭・化石館」を観光。当館は常磐炭田の拡大とともに発展したいわき市の炭鉱の歴史と、市内の約8500万年前の地層から昭和43年に発見されたクビナガリュウ（38年後新種であることがわかり、正式にフタバサウルス・スズキイという学名になった）の化石や大小様々な世界の化石を展示している。

炭鉱の歴史は幕末の採掘開始から第2次大戦後の黒いダイヤと呼ばれた繁栄の時代（ピーク時は年間400万トン採掘）を経て他のエネルギーとの競争に敗れ51年に廃坑するまでの歩みを展示している。地下600メートルに降りる雰囲気味わいながら入坑した模擬坑道内には実際と同じ柵が組み、古い時代順に採炭状況の移り変わりが再現されている。職員の

一との競争に敗れ51年に廃坑するまでの歩みを展示している。地下600メートルに降りる雰囲気味わいながら入坑した模擬坑道内には実際と同じ柵が組み、古い時代順に採炭状況の移り変わりが再現されている。職員の



当時の常盤炭鉱の写真



再現した展示館で 懸命にメモを取る筆者

説明によれば、当地の炭鉱は温泉と共存しているため1トンの石炭を掘るのに40トンの湯を排出しても、坑道の温度は40度、湿度は100%という劣悪な環境での作業を余儀なくされていた。工夫は15分間労働すると一旦休憩し、その都度坑道内に設置されている水風呂で体を冷やすという非効率な働き方で、1日8時間労働といっても実働は5時間位だったろうとの話だった。



静寂な県内唯一の国宝「願成寺白水阿弥陀堂」

翌日はジャンボタクシーで最初に美空ひばりの歌碑の有る塩谷岬を観光する予定だったが、運転手の勧めで

県内唯一の国宝「願成寺白水

がんにょうじしらみず  
阿弥陀堂」を拝観することになった。これが良かった。白水阿弥陀堂は奥州藤原氏の始祖藤原清衡の娘徳姫が亡夫の冥福を祈るために栄暦元年(1160年)に建立。本尊阿

弥陀如来他4体の仏像を安置しており5体とも国の重要文化財に指定されている。御堂は三方を緑に覆われた低い山に囲まれ、両側には池を配した広大な庭園が造営されている。御堂の前庭には樹齢、数100年の巨大な公孫樹の葉が黄色に染められ始め、庭のそこそこに配置された楓の薄い赤、どうだん躑躅の真赤な葉も加わり、周囲の緑と一体となって絶妙なグラデーションを造っていた。朝からの小雨で御堂を囲む全体の佇まいがしっとり濡れて、まるで絵の様な世界を作っていた。思いがけない眼福を楽しんだ。

豊間地区の90%が被災 一般家屋は皆無 百数十人が亡くなった ああ、東日本大震災



逃げ込んだ豊間中学の近く 残った門柱に明るくペイントが



阿弥陀堂を後に塩谷岬に向かう途中で、運転手から被災地の復興が遅れていることや大気汚染に対する住民の感情と行政の理解の食い違い等について説明を受けた。海岸へ近づくにつれて壊れたままの家が見

られ始め、海岸手前の谷あいでは復興住宅の建設用土地の造成が行われていた。海岸に沿って津波に襲われた集落や海水浴場の跡がいくつも見られたが、瓦礫は片付けられても土台だけの寒々とした風景が連なっていた。特に最初に出会った塩谷岬近くの集落では500人が被災、死者は151人、行方不明者が未だに9人も残す、という大きな被害を受けていた。塩谷岬の上空はどんより曇り、海は台風接近の影響で荒々しい大きな波が打ち寄せていた。美空ひばりの歌碑は被害を受けておらず観光客が近づくと塩谷岬の歌を奏でていた。歌碑前にあるたった1軒の土産品店は海面から10メートル余の土地に建てられていたため震災被害を受けずに営業を続けており観光バスで訪れた観光客で賑わっていた。

豊間に隣接 塩屋崎の灯台が霞む「みだれ髪」碑



慰霊碑ではありません 歌碑です

その後、環境水族館「アクアマリンふくしま」を観光。斬新な近代的な建物の中に①海・生命の進化、②ふくしまの川と沿岸等全部で14のテーマの下に展示されており一般客の他、中・高校生など多数の学生が訪れていた。最後に「いわき・ら・ら・ミュウ」（小名浜の魚介類市場、お土産品店、レストラン等いわきを代表する総合施設）の“さかな処 まさ常”で昼食を摂り、雨の中ホテルハワイアンズへ。同ホテル午後3時発のバスで帰京の途に就き午後6時過ぎ新宿で解散。

色々な魚を見て

ビールで味わう大盛り海鮮丼の魚



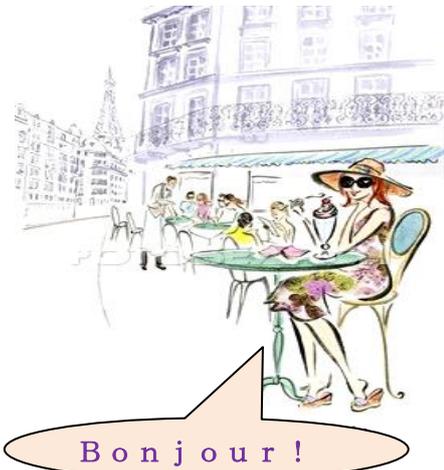
今回の旅行は震災後の福島県の現状を知る上で大変勉強になり、企画された幹事の方々に感謝します。追って、帰宅日の熟睡中午前2時過ぎ、福島県沖を震源とする震度4の地震でたたき起こされたが、東北各地に注意報が発令され福島県の相馬港でも約40cmの津波が観測した、と報道されていた。東日本大震災の余震が今も続いており現地の方々の恐怖が思いやられると共に1日も早い復興と避難地からの復帰を心から念じたい。

オレ 福島県の観光大使だから 復興応援のために・・・グイッと



## ボンジュール パリからこんにちは

河西 房子



Bonjour!

ボンジュール。

南アルプスから、娘の出産でパリにいます。

9月29日に生まれ、もう2週間になります。

こちらでは、出産後4日で退院、あまりママへのアドバイスも無く、生まれてすぐママのベッドのそばにおかれ、新米ママは大変です。

お風呂もオリーブオイルを塗られざっとお湯にぼちやんで終わり。新生児は顔も洗わずびっくり、もっと驚いたのは、

産後産科の先生が家に来てくれ、診察してくれるのですが娘の家に来て何と抜糸(女性ならわかるでしょう)次に来たとき確認しておしまい。お陰さまで娘はだいぶ楽になったようです。自宅のベッドでの診察、日本ではありえないかも、でも日本では昔は自宅出産でしたっけ。

娘の婿は、ミュージシャンなので家にいることが多く、自分の娘の世話をしてくれるので

ワタシハ  
ムコサンデス

ばーばは、洗濯と、料理だけ、あと日中は町に出かけます。メトロ、バスのチケット

は共通でどこまで乗っても同じ金額です、10枚15ユーロ、ノートルダム、ルーブル美術館、セヌ川気楽に出かけられます、いつもは娘がついて案内してくれていたのあまり、覚えられなかったのですが、今回は1人で出歩く機会が多く

メトロの名前や乗り継ぎを覚えたり、頑張っています、1人なのですりや置き引きには注意ですが信号を渡るとき前の人について渡ると赤の時があ

アンシャンテ  
ジュ・マペル マコ

るので、要注意、パリでは自己責任において赤信号で平気で渡るのうっかりできません、赤でぽつんと待っているのは私くらいでしたが、なれるといつの間にか私も赤で渡っていますご用心。パンや乳製品が美味しく、食べ過ぎに注意はしているものの怪しいこのごろです、ワインが飲めれば最高ですが下戸で残念。

まだまだ続くパリ生活、詳細はスキーでお会いしたときに。メルシー、オルオバー。



Combien?  
農業国なので野菜は  
豊富で安いです

ルーブル博物館  
などに気軽に  
行けるよう  
になりました



ケ・ス・ク・  
セ・ク・サ?  
魚も新鮮です



# 2014年 マスターズスキークラブ 行事予定 (1)

ツアー名 	ツアーNo1 初滑り	ツアーNo2 八方ツアー	ツアーNo3 スクール
項目	<p>完備したリゾートホテル <b>玄関から楽々スキー</b></p> <p>大浴場は空いていて好評！ 食事も好評、飲み放題がある 滑り疲れたらおしるこ茶屋へ</p> <p style="text-align: center;"><b>上越国際</b></p>	<p>五竜47にも行きます <b>雪質、最高の時期です</b></p> <p>今年もケルンから滑ろう！ 宴会はゆっくり楽しめます</p> <p style="text-align: center;"><b>八方・五竜</b></p>	<p>温泉付きリゾートホテル <b>技術向上で怪我予防！</b></p> <p>講師は森屋・岸本・相澤 自由組希望は振込時記入、 有資格者が入ることも有ります</p> <p style="text-align: center;"><b>尾瀬岩鞍</b></p>
日程	<p>1月7日(火)朝発 ～9日(木) 2泊3日</p> <p style="text-align: center;"><b>全観→花小金井</b></p> <p>朝6時15分～花小金井7時</p>	<p>1月21日(火)午後発 ～24日(金) 2. 5泊4日</p> <p style="text-align: center;"><b>花小金井→全観</b></p> <p>午後3時発～全観3時45分</p>	<p>2月3日(月)朝発 ～5日(水) 2泊3日</p> <p style="text-align: center;"><b>全観→花小金井</b></p> <p>朝6時15分～花小金井7時</p>
場所  宿 電話	<p>上越国際スキー場 ホテル グリーンプラザ上越 TEL 025-782-1030</p>	<p>八方・五竜スキー場 丸金旅館 TEL 0261-72-2114</p>	<p>尾瀬岩鞍スキー場 尾瀬岩鞍リゾートホテル TEL 0278-58-7131</p>
会員参加費 会友は+1,000円 募集人数	<p style="text-align: center;">¥38,000</p> <p style="text-align: center;"><b>3日間リフト券込み！！</b></p> <p style="text-align: center;">15～24名</p>	<p style="text-align: center;">¥37,000</p> <p style="text-align: center;">リフト券別</p> <p style="text-align: center;">13～20名</p>	<p>70歳以上 ¥39,500 55～69歳 ¥41,000</p> <p style="text-align: center;">リフト券込み(上記の差はリフト券代)</p> <p style="text-align: center;">20～25名</p>
申込み締切日  申込みはメール希望 または葉書かFAX	11/30 締切り	11/30 締切り	11/30 締切り
12/4日迄に連絡ない場合、予定通り実施します			
申し込みFAX問い合わせは アンダーライン幹事へ電話  (郵便番号・住所)	<p>出口・萩野:042-323-1883</p> <p style="text-align: center;">〒187-0044</p> <p>喜平町1-6-33-203</p>	<p>小池・喜多:042-395-8923</p> <p style="text-align: center;">〒189-0011</p> <p>東村山市恩多町2-29-39 恩多マンション6-106</p>	<p>乗越・原山042-461-2059</p> <p style="text-align: center;">〒187-0011</p> <p>鈴木町2-241-18</p>
申込みアドレス	hagino@msd.biglobe.ne.jp	masako_kita0709@docomo.ne.jp	nobu19@zb3.so-net.ne.jp
<p><b>予約金は5,000円</b></p> <p>振込みは必ずツアーNoと 実施日を記入願います 交通手段全てバス </p>	<p style="text-align: center;">12/6迄に振込むか12/4の忘年会での手渡しOK <b>残金はツアー当日徴収</b></p> <p style="text-align: center;"><b>郵便振込</b> 口座番号 00170-3-397677</p> <p style="text-align: center;">参加者少ない場合、参加者と相談(費用増える可能性あり)</p>		

- ★ 今年からバス代が上がっておりますのでご理解ください。 ★ ルネ小平組はリボン色変わります。
- ★ スキー傷害保険契約期限を確認してください。必ず加入のこと。会友も同じですのご連絡ください。
- ★ 予約金振込はツアー決定後、必ずツアーNoとツアー月日を記入して下さい。忘年会時手渡しもOK。
- ★ キャンセルの場合はツアーの1か月以上前なら予約金は返金されます。

# 2014年 マスターズスキークラブ 行事予定 (2)

ツアー名  項目	ツアーNo4 志賀ツアー <b>広～い志賀高原</b> 滑ってないないところはどこ 東館山からの眺めは最高 <b>志賀高原</b>
日程 出発場所と配車順を注意 集合場所は従来通り4ヶ所 帰りは逆になります	2月25日(火)午後発 ～28日(金) 2. 5泊4日 <b>花小金井→全観</b> 午後3時発～全観3時45分
場所  宿 電話	志賀一の瀬スキー場 <b>ホウルス志賀高原</b> TEL 0269-34-3355
会員参加費 会友は+1,000円 募集人数	¥30,000 現地参加は一泊8,000円 <b>リフト券別</b> <b>15～24名</b>
申込み締切り日 <b>申込みはメール希望                  または葉書かFAX</b>	<b>11/30 締切り</b> 12/4日迄に連絡ない場合 予定通り実施します
申し込みFAX問い合わせは アンダーライン幹事へ電話 (郵便番号・住所)	森屋・樋口:042-343-0106 〒187-0043 学園東町2-9-43-3
申込みアドレス	higuchim@jcom.home.ne.jp
<b>予約金は5,000円</b> 振込みは必ずツアーNoと 実施日を記入願います 交通手段全てバス 	<b>左ページと同じ</b> <b>郵便振込口座番号</b> <b>00170-3-39767</b> 参加者少ない場合、参加者と相談 (費用増える可能性あり)

<b>忘年会でシーズンイン!</b> 日時:12月4日(水)5時半 場所:はなの舞 一橋学園店 042-349-1361 一橋学園東口 坂下商店街方面50m 会費:酒飲む人 5,000円 酒飲まない人 4,000円 原山(090-9951-1226) 申し込みはメール・電話・FAX 11月30日締切 この時に各ツアーの 申込金を拝受OK	<b>小平スキー連盟行事案内</b> <b>新規行事</b> <b>市民スキースクール・</b> <b>スキーツアー</b> 平成26年2月14日(金) 夜中央公民館出発 2月16日(日)夜帰着 小学3年生以上の子どもも参加 できますのでぜひお孫さんや 家族と一緒に参加ください。 パッケージツアーもあります。 詳細は12/20の市報かHPで
---	--

このようなパンフレット作りましたのでご利用ください

## 小平市スキー連盟

### 2013-14 行事へのお誘い!



★ジュニアスキースクール  
 日程 平成25年12月29日(日)朝発～31日(火)  
 (2泊3日)  
 参加資格 市内在学小学3年生～高校生まで  
 開催場所 長野県 菅平高原スキー場  
 宿泊場所 菅平スイスホテル  
 案内 平成25年11月5日号の市報に掲載  
 詳細は Web で!!  
 ◆ウェア・スキーなど、レンタルあります。

★市民スキースクール・スキーツアーの開催  
 《ツアー実施のため、一人でリフトに乗り滑ることが出来る人に限ります。》  
 ◆親子で参加も歓迎します。(小3～高校生)  
 日程:平成26年2月14日(金)夜発～16日(日) 希望者には、検定会を実施します  
 場所:長野県志賀高原スキー場 宿泊:プリンスホテル(予定)  
 案内:平成25年12月20日号の市報に掲載 詳細は Web で!!

市民スキー大会  
 スキー技術選手権大会  
 プライズ検定会他

スキー連盟の情報は、ホームページを  
 ご覧ください。



小平市スキー連盟 ホームページ <http://www.kodairashi-ski.jp/>  
 連絡先 E-mail: exc.com@jcom.home.ne.jp 酒井  
 TEL: 090-8317-4954 (夜間) [pm6:00 から 9:30 まで]

## 編集後記

創立25周年記念号をお届けできることは誠に嬉しい限りです。今年は皆様のご協力を大いにいただき52ページと分厚くなりましたので初めて別冊に分けました。記念の有志によるベイルツアーで作ったDVDも、この通信も、その時のことを思い出しながら楽しく編集できました。あらためて自分自身が元気に全行事に参加できた幸せを感じています。新入会員が途絶えておりますので、高齢者の私たちがお互いを支え合い、クラブを維持していくことを願って後書きとします。(森屋 建男)



## マスターズスキークラブの 2 5 年を振り返って



田村 英一

マスターズスキークラブ創立 2 5 周年まことにおめでとうございます。

会員の平均年齢 7 0 歳超のスキークラブが 2 5 年目を迎え、今なお国内は勿論、海外まで活動の範囲を広げている、中高年のスキークラブが、日本広しといえど、そう有ると思われません。

そのマスターズスキークラブと、2 0 年以上に亘って付き合いようになった切掛けは、1 9 9 3 年と思うのですが、庭先でスキー板の手入れをしていたのを、森屋さんがみて（森屋さんとは隣どうし）スキーをやられるなら、小平に中高年のマスターズスキークラブがあり、乗鞍国際スキー場へ行く計画がありますが行きませんかと誘われ、参加してからの付き合いです。

その当時の会長さんは、今は亡き岩田さんで、帰りの車中で入会を勧められ、入会を即答した記憶があります。

それ以来 2 0 年以上にわたる、マスターズの皆さんとの付き合いになりますが、マスターズスキークラブに入会したお蔭で、地域に多くの友人に恵まれ、冬はスキー、夏はゴルフと、定年後の生活を、活力ある充実した第二の人生にすることができ、7 6 歳になってもスキーとゴルフができるのは、偏にマスターズの皆さんのお蔭と感謝しきりです。

さて、話は変わりますが、マスターズスキークラブ 2 5 年の中で、私にとってマスターズスキークラブは凄いいと思われることが二つあります。

### 10周年記念のウイスラー山頂で



一つには、節目の年にクラブの記念行事として、海外のスキー場へ 4 度も出かけたことです。

二つ目は、クラブ内に、日本スキー連盟公認の準指導員・正指導員を、しかも高齢になって取得された方が複数おられ、今ではその方々の指導のもとで、クラブ内でスキースクールが開催出来るよう



### 新雪を滑走する勇姿

になったことです。

マスターズ創立 1 0 周年の節目の記念事業として、海外のスキー場へ行こうとの案がでて、プライベートで、岩田さん、市丸さん等が、カナダのウイスラーに行かれ、その魅力と素晴らしさを聞かされており、会員も高齢化、この先何が起きるかわからないので、行けるときに行こうと云うことで、行き先もカナダのウイスラーに決まりました。

このウイスラーでの海外スキーの魅力に取りつかれ、今まで行った海外のスキー場は、



10周年のウイスラーと違って、今回参加の皆さんは、海外のスキー場の雰囲気慣れられたとみえ、夕食は毎晩ベースのヴィレッジ内のレストランを食べ歩く方もおられました。15周年のウイスラーでは歳のせい最上部のコブ斜を滑る勇氣はありませんでした。

会員の中で、準指導員の資格取得に挑戦、名乗りをあげられる方が現れたのは、15周年を前後しての頃だと思います。

現在資格を取得された方々の受験の際の年齢は、50代後半～70代にかけてで、スキーに取り組む姿勢の上昇志向の強さと、年齢を感じさせない逞しさに、ただ感心するばかりです。

中でも女性の関口さんは、70歳で挑戦取得されたと記憶しています（間違っていましたらごめんなさい）今ではツアーでご一緒する都度お世話になるばかりです。

指導員の資格を取得された方がおられるお蔭で、ここ数年クラブ主催のスキースクールに、外部から講師を招聘する必要がなくなったのと、クラブ主催のスクールに多くのかたが参加されるようになったことは、まことに喜ばしい限りです。スキーは年老いても上達するスポーツとのことですので、健康と体力が続く限り技術の向上に挑戦する所存です。



さて、海外へのスキー行は年齢からして、15周年で終了かと思っていたら、あんに相違して、皆さん益々元気盛んで、20周年の海外ツアーはヨーロッパにしようと、アルペンスキーの本場オーストリアの、バドガイシュタインへ出かけたことです。

バドガイシュタインでは、こんな偶然は二度と起きないと思われることがありました。宿泊したホテル前の広場でイベント（イベントの名称は失念）が開催されており、そのメインゲストに、我々中高年のスキーヤーには神様のような憧れの存在であった、トニーザ

イラー氏が招かれており、他国のスキーヤー共々、ザイラー氏をまじかに見ることができたことです。また、我がマスターズの女性メンバーで、真偽のほどはわかりませんが、ザイラー氏と握手をした方がおられると聞き及んでいます。

20周年以降、海外への遠征については、会員の高齢化で、事故が起きる確率が



高くなっていることと、海外で事故が起きた際の対処が難しいとの判断で、25周年のクラブ記念行事としての海外ツアーは実施しないことになりましたが。



ゲレンデ案内版の前で

様に心配をおかけしたことは、痛恨の極みで誠に申し訳ございませんでした。

余談になりますが、森屋さんからのベイルのDVDを見て、2002年に、今は亡き岩田さん、退会された高橋さん、関口さん、池田さん等8名でベイルへ行った際の写真を見たら、今回ガイドをしてくれた、大森氏と夕食を共にした写真が出てきました。

このベイル行（2002年3月）では、これから海外旅行をする際、おそらく経験しては困ることを体験させられたことです。

前年の9月に起きた、9・11テロ事件の半年後の3月ということもあったと思いますが、成田からシアトルの乗り継ぎ便でデンバーへ行くフライトで、シアトルで国内線のデンバー行きに乗り継ぐ際に経験したことです。

国際線から国内線に乗り継ぐ際に、手荷物



夜のベイルの街で



検査・ボディ検査を経て、デンバー行きに搭乗するために搭乗ゲートに並んだ際、空港の警備員に、私と池田さんが搭乗客が並んでいる横に呼び出され、搭乗客がみている前で、徹底的に身体検査をされたことです。まず、体に触れてのボディチェック、背負っているリュックの中身を全部だして調べただけでは済まず、靴を脱がされて靴底と中を調べると同時に、靴下も脱がされ、最後に携帯電話のボタンを、一つ一つ警備員の監視の下で押さされ、池田さんは持っていたペットボトルの水を警備員の目の前で飲まされて、ようやく解放され、搭乗したことが強烈な記憶として残っています。

単純に25年という歳月を数えれば凄く長く感じられますが、私にとっては短い25年でした。マスターズに入会後の20数年健康であったお蔭で、クラブ主催の4度に亘る海外ツアー、毎年計画される国内の大概の行事に参加できたことです。

悪評高い後期高齢者の76歳に成りましたが、不幸中の幸いと云えるんでしょうが、ベイルへの出発直前に再発し入院治療の際、溶血性貧血の再発は見られず、肺炎のみで一週間の入院ですみました。

完治したわけではありませんが、6月のマスターズのゴルフコンペに参加、18ホールを何事もなく回る事ができたことは、健康を取り戻した証と喜びもひとしおでした。

マスターズスキークラブもここ数年若い人の入会がなく、平均年齢が、70歳を超えたこと、高齢で体調不良を訴えられて退会される方が出て、会員数が減少気味になっているのはまことに残念です。

役員の方は大変でしょうが、平均年齢70歳超で、25年の長い期間、一度も休むことなく活動を続けている、中高年中心のスキークラブは、国内では我がマスターズスキークラブくらいではないでしょうか。私自身現在の身体の調子が続けば、80歳まではスキーをやれそうな気がしておりますので、このままの状態が高齢化が進み、会員の減少で、マスターズスキークラブが自然消滅することのないように願っています。

何とか工夫して解決策を見出していただき、末永くマスターズスキークラブが存続することを願って筆をおきます。



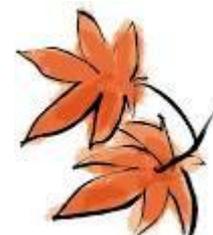
## 小平マスターズスキークラブ 25周年を迎えて

関口 恒子



マスターズスキークラブ発足から早いもので25年の月日が経ちました。初代会長の岩田様を始めとして、笠原様、田村様、そして現会長の森屋様とお世話になりました。色々な事がありましたスキー人生ですが、私はマスターズ誕生の二年前の昭和62年蔵王で村杉様方と二級をその四年後に待望の白いバッジを胸に付ける事が出来ました。25年の間には退会された方や、新しく仲間になられた方が大勢あり、最初からの方は数名になってしまいました。今私も70代後半になり、一日のリフト乗降回数はぐんと減り、休憩ばかり多くなり、午後3時頃には宿に帰っております。

70才で膝を痛め、両方人工関節となりましたが、それなりにこれからのスキーを楽しく、転ばないように、助けていただいてゲレンデに立てる事を願っています。マスターズスキークラブの皆様、これからも宜しく願いいたします。



## クラブ創立25周年記念海外スキーツアー

米国 バイルスキー場 2013/3/12(火)~19(火)



原山 伸之



有志12名で良いところへ行ってきました

クラブ創立 25 周年を記念し、有志による海外スキーツアーは、平成 25 年 3 月 12 日(火)~19 日(火)の日程で、米国コロラド州にあるバイルスキー場に、会員 8 名(森屋夫妻、乗越夫妻、飯島さん、真杉さん、和合さん、原山)、会友 4 名(田神さん、竹内さん、竹村さん、塚田さん)の総勢 12 名で出かけました。

会員の田村、関口の両姉妹も参加予定でしたが、体調不良や諸般の事情により途中キャンセルされ、残念ながら不参加となりました。

今回のツアーは、当初いつも当クラブが利用している海外スキーツアー専門会社「フェロトラベル」を利用する予定でしたが、森屋さんのご尽力で、格安航空券を取得、宿舎も現地のツアー会社「スキーアメリカ」を通してホテル・エバーグリーンに直接依頼し利用することが出来たのでリーズナブルな料金となりました。森屋さん有難うございました。

今回の旅行先は米国のため、ESTA(渡航認証許可)が必要とのことで、ツアー会社に依頼して取得すると 3,500 円、HP 等からパソコン等操作で取得すれば 1 千数百円とのことでした。私は何とか?当然?リーズナブル料金の方で取得しました。

初日<3月12日(火)>

成田空港 15 時集合:同空港発 17:10 UA838 便

スキー板は空港宛に事前送付し、旅行ケースとリュックで自宅を 11:30 過ぎに出発、西武線、山手線、京成線を乗り継ぎ、14 時前に空港着、別経路で到着の M さん



出発する時はワクワクと嬉しいもんだ

夫妻、会友のTA、TU両兄の姿も見え、ホッと一息、スキー板到着を確認（受領は後刻）し、まずは昼食が未だなので、TA、TUの両兄と近くの和食レストラン「そじ坊」にて腹持えをする。同時に、旅行の無事を願って安全祈願の祝杯を挙げる。（安全祈願の効果は、短時間で消える？なので、このときばかりでなく、道中の津々浦々、あちこちで、時々？しょっちゅう？安全祈願の祝杯を挙げる・・・何回挙げたか忘れたが、そのご利用で何回かのサプライズ？も大難に至らず小難に終わり、無事帰朝出来たと感謝している。）

この後、出国・搭乗手続きへと歩を進めるが、そこで最初のサプライズが待っていた。

### ※サプライズ1

会友のTUさんは、液体（ペットボトル等）は100mlまでの小瓶にしないと、没収されますよ・・・と事前通知があったが、ついペットボトル（500ml）のまま出国手続きに入り、ペットボトルを没収される。その後、没収の余波？も手伝い、皆さんをビデオカメラに収めた際使用した三脚を通関ゲート付近に忘れ、係員とともに一時入国？三脚を落掌し再び出国、やれやれ先ずは小難でした。

全員無事出国手続きを完了し、35番ゲートより搭乗する。  
搭乗機は定刻に離陸し、一路サンフランシスコ空港へと向かう。  
日付変更線を越え、約9時間後にサンフランシスコ空港に到着。



乗り継ぎは面倒で やだね

行方不明の原山さんも見つかり最後の積み込み さあ！乗り継ぎだ

2日目<3月12日（火）

現地時間以下同じ・（乗継）サンフランシスコ空港～10:10着～13:06発 UA545便にて  
デンバー空港へ16:40空港着>

トランジットのサンフランシスコ空港へは30分ほど遅れの10:40に到着、そこから乗り換えてデンバーへと向かう予定になっていたがここでもサプライズ。

### ※サプライズ2

小生、入国手続き等を完了し、スキーと旅行ケースを受領し、皆の後について行くが、なぜか途中で皆の姿を見失い独りとなる。空港内看板や、概略地図を見るが、良く分からないので、係員にたどたどしい英語で、「エクスキュー



その前に腹ごしらえを お前そんなに食べて・・・

ズミー、・・・」とチケットを見せながらデンバー行きの国内線乗り場を尋ねると、同係員が、別の黒人係員を連れてきて、この者が案内するので、付いて行けとの指示、お礼を言ってその係員に付いて行くこと5分、漸く皆さんが心配顔で待機している場所にたどり着く。全員が手分けして探してくれた由、ご心配をお掛けし申し訳ありませんでした。怪我の功名でこれが教訓となり、以後の行動は先頭者が要所々々で必ず人員点呼し、確認のうえ次の行動に移ることを申し合わせる。メデタシ。ここも小難で済んだようだ。

サンフランシスコ空港では、同空港内レストランで適宜昼食を摂り、休憩の後、定刻の13時過ぎにデンバー向け出発する。

機内で気が付いたことだが、通常、日本では預け荷物とする旅行ケースが、頭上トランクにぎっしりと詰まっていたり、我々の持込み手荷物の置き場所がないくらいである。止む無く自席よりかなり離れた場所に収容したが、これは、国内線における手荷物の預け料が最近有料（海外からのトランジット利用客は無料）となったため、機内持ち込みが激増したとのことである。

デンバー空港には定刻の15:40（現地時間）に到着、預けていたスキー板、旅行ケースを受領し、出口を通過するが、通常日本で行う割符との照合手続きがない。他人の荷物を誤って？持ち出したらどうなるのだろうかなどと余計な心配をしつつ、チャーターの貸切バスに乗り換え、ベイルへと向かう。道路は運転手さんの推奨もあり、高速道を使わず風光明媚なシーンが多い標高3千メートル級の一般山岳道を縫うように走る。夕暮れ時も相俟って、外は相当に寒そうである。走ること3時間弱、やがてベイルの街並みが見え、今晚から逗留するエバークグリーンロッジ前到着となる。



**ようやくホテルに着いたよ、前夜祭だ！この時は皆元気でした・・・**

部屋割りには、田村さんの直前キャンセルにより、会友のTA、TUさんが同室となり、小生はツインベッドの1人部屋となる。気が楽な反面、寝坊や集合時間遅刻等が少々気になることもあったが、全体を通じては大過なく過ごせた結果となったようである。

宿泊の諸手続き等、一段落してからの夕食は、同ホテルレストラン・バー？での先ずは小手調べとなる。ビールでの乾杯の後、各自軽食等で空腹を満たすことになる。ビールも結構旨く好ける味である。MAさんの差し入れで、我がテーブルには2杯目のビールがピッチャーで届く。これもすぐ干してしまい、これからの滞在中、このバーレストランは使用できるか否かを見計らう意味でも、3杯目ピッチャーを愚生が僭越ながら購入し、皆さんと頂く。ソーセージ、ハム等のつまみとともに、これからの滞在中の安全祈願を籠めた祝杯を改めて挙げる。

夕食兼初日のパーティーはそこそこに切り上げ、部屋に戻って入浴の後就寝。

ここで、入浴のシャワー温度が微く、どうしても熱くならないことに気付く。

洗面所は熱いお湯が出ているので、操作の仕方が悪いのだろうと推測し、翌日訊いてみることにした。(翌日訊いて分かったことだが、押し回し=PUSH TURNと書いてあった。どうも、押し方が足りなかったようである。)

お酒のつまみにと日本から持参した加工食品類のビニール袋が、全部、相当膨らんでいた。標高が高いので気圧の影響だろう。

### 3日目<3月13日(水)>

時差ぼけか一人部屋のせいかわ、通常より多少早めに目が覚める。時計を見ると6時を指している。外は未だ暗い。ホテル近くの高速度を走る車の音が大きく聞こえる。TVを点ける。日本語ではない。そうだここは米国のバイルスキー場である。はるばる来たぜ、バイルへ…。



洗顔、整髪との身繕いをして、朝食会場のレストランへと降りていく。

未だ時間前で、オープンしていない。仲間2~3人の姿も見られ、挨拶、談笑しているうちにオープンとなる。

これから5~6日間の朝食はこのレストランでお世話になる、一通り味わって見て気に入ったものを食べよう…、バイキングなので、少しずつ食べられるだけ取って絶対残すなよ…などと己に言い聞かせつつ頂く。

フィニッシュとなり部屋に戻って、スキーの身支度を整い、スキー板の手入れ等もあり、やや早めに部屋を出る。とくに小生は一人部屋なのと、サンフランシスコ空港での前科?もあるので、遅れないようにロビーに集合する。



天気は快晴で、絶好のスキー日和である。案内の大森ご夫妻が到着して挨拶する。奥方の良子さんも、子供を保育園に預けての応援案内である。

そうか、夫唱婦随の案内か…などと感心しながら挨拶を聞き入る。

大森氏の案内でホテルを徒歩で出発し、バス停から街中を走る無料巡回バスに乗り、ゴンドラ乗り場に到着。平日であるが、春休みの家族連れ等で相当混雑している。ゴンドラ待ちの列に並び待つこと15分程度でゴンドラ乗り場へ、リフト券チェックはバーコードになっているチケットを係員が携帯チェッカーで1人1人チェックする。紛失しても切り離れたバーコードの付いたもう一片を持参すると再発行してくれるとか…、日本の倍近い金額のリフト券なのでその辺のサービスも含めての料金か、と愚考しつつ

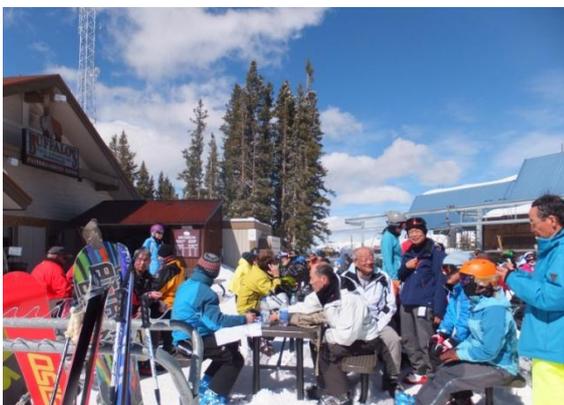
**時差ボケと高山病でイマイチの方も元気に滑る  
なんたって素晴らしゲレンデだもん！**



ゴンドラへと乗車する。このベース基地とも言うべきダイヤモンドヘッドエリアの第19ゴンドラより上の乗り継ぎゴンドラ、リフトはノーチェックである。リフト券はバーコードにより管理されているので、山麓で1度チェックすれば事足りるのでこのようなシステムになっていると後刻、大森氏から伺う。

ゴンドラに乗車すること約10分、イーグルズネスト降車場に到着。標高3千Mを越えていることから、やや酸素が少ない気がして、用意の携帯酸素ボンベで吸入する。心持ち息苦しいのが少しは楽になったような気がした。トイレタイムの後、大森氏の案内で滑り出す。初日は中級コースで慎重に行こう…とのご配慮らしい。トレインで滑った後、早めの昼食ということで、山頂のツウ・エルク・レストランに入る。このレストランは、並んでいるメニュー棚より各自お盆に取って載せ、最後に会計を済ますシステムである。小生どこに会計があるのか分からずうろろしていると、係員がチェッカープリーズとか言って場所を指して教えてくれた。サンキューと言って会計を済ますと、メニュー棚にはないチョコを3個お盆に載せてくれた。ハハーン、これが会計済の証拠か…などと思いつつ、皆さんが居るテーブルに着く。大森氏にこの件を確認すると、それはサービスのチョコであって決して支払い済をチェックしている訳ではないと言われる。ベイルには、悪い人は居ない…と言っておられたがそれ以上の本心は訊き得なかった…。

午後からは、1時間ほど滑った後、ウイスキージャックのレストランにて小休憩する。ここでのサプライズ



ゴンドラへと乗車する。このベース基地とも言うべきダイヤモンドヘッドエリアの第19ゴンドラより上の乗り継ぎゴンドラ、リフトはノーチェックである。リフト券はバーコードにより管理されているので、山麓で1度チェックすれば事足りるのでこのようなシステムになっていると後刻、大森氏から伺う。

ゴンドラに乗車すること約10分、イーグルズネスト降車場

**この方が名の知れたイクサミナーの**



**ガイドの大森さんと奥さんの良子さん**



**オイラは口ハ丁、腹ハ丁**

**※ サプライズ3**

会員のIさん、トイレに入ったものの、出られないとのこと、いわゆる雪隠詰りというやつである。男性があまり助けに行かれる場所でもないだけに、同性のMさんが助っ人に行き、事なきを得る。めでたし。

**山頂で日向ぼっこ**



**カンポ・・・で乾杯**



**夕食後、ビレッジのブランド店を買わずに散歩**

本日は、滑走初日とあって、早めのホテル帰館となる。

夕食は、やや体調不良（高山病？）

の会友TAさんが、出かけるのは辞退するとのことで、同人と同じ会友仲間で優しく付き合いの良いTUさん2人を残し、大森氏推奨のイタリアンレストラン「カンポ・デ・フォルオ」へと10人で出かける。味もなかなか、値段もそこそこで先ずは及第点であったかと、皆さん満悦のご様子、帰館途中にあるアイスアリーナの前を通った際、アイスホッケーの試合中で、珍しさも手伝って暫し足を止め、なかなかの迫力ある試合を観戦の後、帰館となる。

**※ サプライズ 4**

前述のとおり会友のTAさん、軽い高山病で、昼の滑走中からやや体調不十分であった由。

大事を取って夕食時の外出は控え、翌日の全快を祈願し、早めの就寝となる。

翌日、携帯酸素ボンベで吸入したら大分良くなり元気回復となる。

**4日目<3月14日（木）>**

ホテル発9時 大森氏の案内で、バイルに来たら必ず滑っていただきたいと言われているビーバークリークスキー場へと向かう。

同スキー場は、設計当初からコンピューターを駆使して、自然環境へのインパクトを和らげて創られたとの由、大森さんの手回し良い配慮で、ホテル前から乗車し、途中のバス停にて乗り合わせのお客5人と同乗し、乗ること約30分、ビーバークリークリフト乗り場へ到着。

天候も快晴で絶好のスキー日和、遠くの山々もはっきりと姿を現し、暫し、写真タイムとなる。会友TUさん持参のビデオカメラも、ここぞとばかりにフル稼働をしたようである。操作する



**二日目**

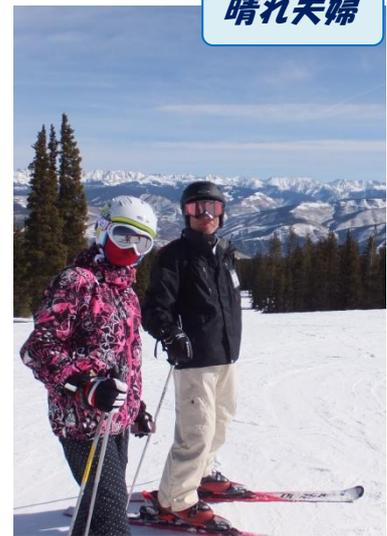
**ビーバークリークも晴れ、晴れ**

TUさん有難うございました。そのビデオカメラを使用し、大森さんが皆さんの滑りを追いかけながら撮影する。後で拝見したが、皆さんの滑走シーンがよく撮れていた。中には、これは私じゃない・・・などという方も居たとか・・・(同じスキーウェアの方は2人とは居なかったはずだが・・・)。

滑走の下山途中に岐路があり、急斜面と中斜面に分かれて



いる。自信のある方は急斜面へどうぞと言うことで、M氏、TU氏、小生の3人がチャレンジする。なかなかのコブ急斜面でやや梃摺ったものの何とか無事に降り皆さんと合流する。



この程度の斜面で梃摺っていると、小学生くらいのちびっ子集団が、インストラクターに連れられて、滑っているではないか?、この集団もそうだ

が、ベイルでは、インストラクターに連れられたちびっ子集団が、コブや崖?の急斜面を滑っているのが見受けられた。日本なら、危険に付き滑走禁止の表示があるのだろうが、さすが自己責任の米国、ガキのうちからガケを滑れば強いスキーになるわい・・・などと感じさせられた。日本のアルペン種目が弱いのも、これらの影響かなどと愚考するのは飛躍のし過ぎ?・・・か。

スキーは何があるか分からない、滑り終わって帰路のエスカレータに乗車中でのサプライズ1件、バス待ちで1件。

#### ※ サプライズ5

MAさんが、エスカレータ乗車中、突然足を滑らし転倒、幸いたいた怪我も無く、擦り傷程度に治まり事なきを得る。

先頭に居た大森氏が、緊急押しボタンを押し、エスカレータは停止したが、その対応はさすがと感心した。MAさん小難で良かったですね、大森さん有難うございました。

(小生MAさんのやや離れた後に居ましたが、どうすることも出来ませんでした。役立たずで申し訳ありませんでした。)

#### ※ サプライズ6

ホテル行きのバスを待っていて、バス到着時刻になっても、会友のTKさんが来ない、探しに行こうかとする、大森さんが間もなくバスが来るからそちらを優先して探しに行くのは辞めなさいと言う。今まで同様のケースは五万とあったが、誰1人として帰館しなかった方は居ない、待っている皆に迷惑がかかる方が大変だから、辞めなさいという。やや冷たいが、一見もっともだとも思えて、どうしようかと迷っているところへTKさんが現れる。同時にバス到着。ヤレヤレ・めでたし。

ホテルに帰館し、ラウンジを見るとワイン&チーズ・野菜がヤマとテーブルに積まれていて、毎週木曜日は宿泊者サービスデーというではないか。



**無料なら どんどんアサル**

外出前にここで一杯と思って飲んでいるうち、今夜の夕食はここでのサービス品だけでも良いのではないかと吝嗇に心変わりし、会友のTUさんとも意気投合、皆さんが出かけて行ったあとも、初日のバー内にサービスのワイン、チーズ、野菜を持ち込み、ワインパーティーと洒落込む。制限時間が過ぎた後も、白ワインなら残っているののでどうぞと言われ、旅の恥は掻き捨てとばかり、結構いただきました。

終了時刻後もまだ時間的には早く、外出組も戻ってないので、場所をTUさんの部屋に移し2次会と行きました。

かなりメーターも上がったところへ、外出から戻った、Tさん、Wさん、TGさんも合流し、大宴会となりました。これも良いサプライズかな?・・・。

**無料のアサリ組を残してヤコウガイはシーフードレストランへ**



### 5日目<3月15日(金)>

本日の行く先は、今まで行ったことのないバックボウルです。天候は薄曇りで、見通しはあまり良くありません。本日から、案内の大森氏が居ないので、先頭は会長のMさん、しんがりは不肖小生が務めることとしました。桑港空港でのアクシデントがあるだけに、やや逡巡しましたが、今やらねばいつ出来る、わしがやらねば誰がやるの義勇心でリラクタントに手を挙げました。私の前を滑る実力派の会友TUさんをお願いし、小生が死んでないか?その辺の吹き溜まりに埋もれてないかを時々チェックしてもらうことにしました。



**3日目はバックボールへ**

先頭のMさんはスピードを落として滑っているようですが、それでも、トレーンで行くと離れてしまうので、Mさんの後に、MAさん、TKさんに入ってもらいました。転倒したり、前者を見失ったら大声を出すことにしました。離れてしまうとどこに行ったのか、離れた方より後ろの方は全員迷子になってしまいます。幸い迷子老人?は出ずに済みました。



**スーパーで大量に買い込んで調理 竹内さん慣れたもんだ!**

夜は、Mさん夫妻のコンドミニウム部屋でホームパーティーを開催しました。

滑り終わってのホテル帰館後、男性5人で、バスを乗り継ぎコンビニスーパー店に出かけ、食料&お酒類を購入して来ました。英語堪能の会友TKさんに一緒に行っていただいたお陰で、スムーズな買い物が出来、大変心強く感じられました。TKさん有難うございました。購入して来た食材や、TAさんが日本から持参の食材も使用し、女性方を中心に料理していただき、美味佳肴の料理が出来上がり美味しくいただきました。勿論お酒類も、ワインを中心に種々それぞれに好きなものを好きなだけいただきました。美味しく楽しいホームパーティーでした。

**4日目**

**誰だ! 迷子は? ヤレヤレ**

**いえ、人のこと言えません**

**6日目<3月16日(土)>**

本日も案内の大森氏は居りませんが、我が仲間では前人未到?のブルースカイベイスンに行くこととしました。昨日の順番でトレインしながら滑り、ブルースカイベイスンエリアを堪能しました。



途中には、スノーボードUSオープン(平野歩夢選手が銀メダルを取ったところ)開催会場もあり、我々はリフト上から

ただけですが、上からだけでは不満?だったのか、ここでまたサプライズがおきる。



**※ サプライズ?**

会友のTUさんは、上からの眺めだけでは満足されなかったのか? 途中下車出来るリフト中間駅で降り

**ああ寒かった~, フル~フル~  
フリ~スカイベイスンの山頂小屋**

てしまい、我々は山頂駅で待つこと20分でした。

前日、同リフトに我々は乗車して



**トゥエルクで1頭のエルクに出会う 怖~いので**

**ハイ じ~っとしてました**

いて中間駅のあることは知っていたが、TUさんはその日は早めに帰館して同リフトは利用していなかったから止むを得ないか？・・・。仲間内でのリフト同乗者は居なかったのかなあ？・・・。

全員での滑走解散後、Mさん、Wさん、TGさん、小生の4人で、Mさんのノンストップレーニング講習を受講しました。かなりハードではありましたが、何とか無事滑り降りることが出来、また、多少新雪滑走も楽しむことが出来ました。Mさん有難うございました。



**じーっと出来ない4人で～す**



**ステーキハウス、料理遅いので**



**呑む呑む！ 食前酒**

夕食は、ステーキハウスで全員揃い、上戸、中戸、下戸の4人づつ3班に分かれステーキとワインを嗜みました。料金もワインの飲む量により、各班ごとにそれぞれに支払、金額にはかなりの幅があったと訊いております・・・。

**食べる食べる！ レッドロブスター！**



**オイオイ、そんなにリキまなくても・・・**

て来ました。オーイエス、アイミステイク、スキーソール&ブーツソールを間違えちゃったくらいを、咄嗟に言いたかったのですが、悲しいかな小生の乏しい英語力では咄嗟には返せませんでした。日本語なら倍返しジョークが出たのに、残念・・・。

本日の天候はやや小雪混じりであまり良くありません。

**7. 7日目<3月17日(日)>**

いよいよベイルでの滑りも最後の日となりました。

いつもの無料巡回バスに乗り、ダイヤモンドヘッドへと向かいます。

車内で小生の履いたスキー靴が50CMくらい滑り出したら、乗り合わせた米国人？が、お前はスキー靴にもワックスを塗って来たのか・・・とジョークを飛ばして

最後の日に怪我でもしたらいけないので、より慎重にと心掛ける。



**5日目 最終日**

**もっと滑ろうぜ！最後だ**

いつものダイヤモンドヘッドより 19 番ゴンドラでイーグルズネストまで昇り、本日のグルーミングマップ（圧雪箇所表示地図）を落掌、さらにワイルドウッド山頂へと向かう。昨夜の雪が残っている箇所もあり、多少は新雪気分が味わえそうだ。皆でベイル最高峰のバッファロー山頂まで行き、トイレタイム&小休憩する。前日までとは打って変わって結構寒い。休憩所では、熱い飲み物を頂き、外へ出る。そこより、ライオンズヘッドへ向け、皆で一斉に降りる。昼食はライオンズヘッドで三々五々、最後のランチを楽しむ。

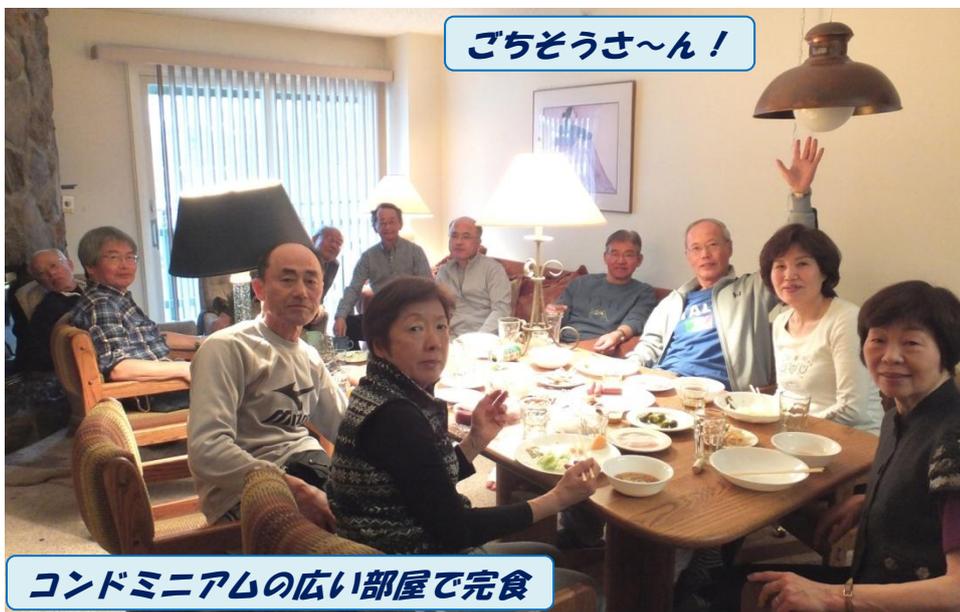
その後、M氏、W氏、TG氏、小生の4人は、最後のベイルを惜しむように再度山頂へとゴンドラに乗車する。降車したあたりから幸い天候も回復してきた。せっかく日本から来たのだからと、天候の神様も味方してくれたに違いない。Mさん先頭で、初体験の今まで滑ってないコースを滑る。適当な急？斜面で、新雪、コブ等もあり丁度良い、手頃？なコースである。

中間点のロッジ等で小休止をはさみ、早めに山麓のライオンズヘッドまで無事滑り終える。4人の無事と成功？を讃え乾杯する。

その後、ホテルに戻ってから出直すのも億劫なので、スキーを土産ショップの置き場に置き、土産ショップを散策、徘徊？する。それぞれが、それぞれに土産物を購入しホテル帰館となる。



**最後だ 平らげようぜ！**



**ごちそうさ〜ん！**

**コンドミニアムの広い部屋で完食**

夕食は、最後の晚餐ということで、Mさん夫妻のコンドミニウム部屋で開催する。

残っている食材をすべて使い切らないと、女性方を中心に奮闘していただき、2日前の夜を再現する。

明日は2時起きなどと言いつつも、

美味佳肴の食事や飲み物も手伝って予定時刻を大幅にオーバーしての解散となる。しかし、飲み足りない輩の男性陣は、ベイルの夜を惜しんで、会友のT A氏、T U氏の部屋に集合し、2次会となる。

飲むほどに酔うほどに、言葉にならない言葉を発しながら、いやーベイルは良かった!! 最高!!を連発し、夜の深まりとともに、白河夜船の現象も見え始める。明日は2時起きで、2時半に部屋の前に出て、各自の起床を確認する約束になっている。この辺で2次会解散、就寝となる。

### 8日目<3月18日(月)>

午前2時起床で、予定は3時半出発である。

先ほどまで最後のベイルを惜しむ晚餐会の1次会、2次会をやっていたせいで眠い。2時に目覚まし時計のお陰で何とか寝坊をせず起きられたようである。

とくに小生は1人なので、

起きられなかったら隣部屋のT Uさんに叩き起こして頂く手筈になっている。どうやらご迷惑を掛けずに済んだようである。

大方の帰朝準備は完了しているので、確認をする程度でほぼ順調に進捗する。

起床確認の2時半になったので、廊下に出て皆さんのご尊顔を拝見、おはようございますの挨拶を交わした後、部屋に戻り退館の準備となる。

準備完了、忘れ物はないか、再度チェックのうえロビーへ行くと皆さんの姿も見える。バスも到着して車内へ、スキー板、旅行ケースの積込みを確認する。

未だ3時前ながら、荷物は全員分積込み完了となる。

全員乗車を確認して、バスは3時5分にホテルを出発、一路デンバーへと向かう。

外は夜の帳が下りたままの状態ながら、ホテル玄関先のイルミネーションが輝いていたのが印象的であった。さらばベイルよ、また来る日まで・・・もう来ないだろうが・・・。

走ること2時間半、バスは予定時刻前の5:35に搭乗地デンバー空港着となる。ここで、各自それぞれの形態で朝食となる。幸い、コーナーの一角を占領することが出来、比較的まとまったの喫食となる。食後に搭乗手続きを済ませるが、お土産を買い足りなかった方か、デューティーフリーショップへと走る姿も見られる。そうこうしているうち、時間となり全員搭乗口へと向かう。

機内へ入ってみると、頭上のトランクはどこも満杯で自分の手荷物等を入れるのに一苦労する。前述どおり、最近米国内便の預け手荷物は有料となり、本来持ち込めない大きさの手荷物も持ち込む輩が多く、我々のような海外からのトランジット利用客が迷惑しているそうである。

8:22発のロス行きUA261便は、そんな不心得な客や、我々のような善良な客?を混載し、ロスへと向かう。

乗ること2時間半、やがてロス到着となる。同空港で昼食を軽めに摂った後、ロス発



最後の夜を惜しみつつ呑み尽くそう

ベイル 乾杯!!

12:15のUA802便は最終目的地（そうでないと困る？）の成田へ向け離陸。

9日目<3月19日（火）日本時間>

約11時間の搭乗後、日本時間3月19日（火）午後4:10に無事成田空港着となった。延8日間、種々のサプライズや、小難もありましたが、出発時のメンバー全員元気で帰国出来ましたのは何よりも先ずもってメデタシ、めでたしです。

森屋さん、種々ご高配頂き、お世話になり有難うございました。

皆さん、それぞれにそれぞれの役割を果たしていただき有難うございました。

お疲れ様でした。ベイル万歳!!!・・・万歳ベイル!!

おわり。

## そのベイルに私たち夫婦も2月に行って来ました



漆田 美代子

夫の傘寿の祝いで去年に続き娘とベイルへ行きました。

晴れた日が多くスキー日和、写真日和、堪能しました。

左の写真はベイルからコロラドロッキーのハウリークロス山（4269m）眺望です。

下の写真の右はその近景です。樹林帯が標高3000mにあり、南斜面は落葉樹アスペン、北斜面はパインの木が多いそうです。

傘寿の祝いを娘と一緒に

記念になりました

コロラドに  
輝くシユプール  
傘寿かな  
リフト人  
ダイヤモンドゲスト  
感極め  
新雪に  
笑ルンルンの  
ベイルかな  
三〇一三年二月



傘寿のツーショット!





## 笠取山に多摩川の源流を辿る



村山眞三

○原点を見つめる、祖先を探るなどに私は非常に興味があり、源流を辿ることもそれらと共通点があるように思う。源流歩きは国分寺崖線沿いの野川(日立中央研究所の湧水～二子玉川 25km)、奥秩父の荒川起点までなどを体験したが、ポトリ、ポトリと落ちる最初の一滴に出会う多摩川の源流を辿る山行が「源流」感があり印象に残る。

○どの季節でも登れるが、最適は5月の第三日曜日がベスト。

この日は頂上まで20分ほど手前にある東京都水道局の笠取小屋前広場で、「多摩川の水源・水干を

守る会」の提供で豚汁、山菜天ぷら、ドリンク類(ビール、ジュース)が配布され、ぶどう汁の振る舞いもあり、200名近くの登山者で賑わう。12時半頃から抽選会があり、茸、花、温泉券などが提供される。緩やかな登山道でやさしい山行だが最大のネックは登山口までの交通手段か。

○今回は12名、車4台での山行。



7:30 立川駅に集合し青梅街道を山梨県・丹波山村まで進む。

10:30 多摩川の主流である一之瀬川沿いの駐車場・作場平口に到着。

ここは標高 1,312m。  
この日を目指して登ってくる人が多いので駐車場は満員だが路肩に無理やり留める。

登山道はよく整備されており適当な場所に休憩所が設置されていて比較的楽な登山と言える。



12:30 笠取小屋に到着。標高 1,776m。

ブルーシートの席は既に殆ど埋まっていたがタイミングよく10名強の席が空いており全員が着席できた。  
豚汁や季節の山菜天ぷらを賞味した後に源流へ向かう。





13:30 分水嶺.

笠取小屋から10分ほど登ると  
分水嶺の碑に着く。  
この尾根の降雨は富士川  
(静岡県)、荒川(埼玉県)、  
多摩川(東京都)  
に流れ分けられるとされる。



分水嶺から更に10分ほど歩き源  
流(水干)へ 向かう。

笠取山(1,953m)は水干へ向かう  
左手にあるが非常に急峻な登り  
道で時間がかかり、疲労度も大な  
ので今回はスキップした。  
この場所は防火帯で森林火災の  
延焼を防ぐために樹木を伐採し  
てあり景観もよい。



この奥の岩棚下が138km  
の多摩川が始まる「最初の  
一滴」のポイント。  
標高1,855m。

笠取山は岩石で樹木が少な  
く保水度が低いいため、一滴  
が落ちるまでかなりの時間か  
かかる。  
ここから50mほど下ると水流  
(川)となる。



# ★ 楽しい！スキーツアーから ★

上越 国際

ゲレンデで一休み

作：森屋

大別当 甘くはないから おしるこ茶屋？

モチ！二つ入りです

当間（あてま）なら 丁度ボクらに アツテマス

のんびりも楽しいぜ

尾瀬 岩鞍

団体コース 急斜でオレには コクたい！

そうです！無理するなよ

ミルキーウェイ オレ達独占 シルバーウェイ！

皆でトレイン、  
ウエ～イ！！

白馬 八方

うさぎ平 どこが平なのと 当たるコブ

自分にアッタとこ滑れば？

ケルンから 一気滑りはあゝ 遠くなり

我々も年をとりましたネ

志賀 高原

一の瀬は ダイヤモンドより よく光り

夕方ダイヤモンドからの帰り

光る眺めにウットリ

寺子屋で 今年もコケて 学びける

スキーはいくつになっても勉強、  
ハイ、おさらい！おさらい！

# ★ 昔のマスターズ通信から ★

●下手な横スキー（好き）の マスターズ 笑歌

作者 変者（編者）●

還暦 まだまだ60、白銀に還暦（感激）だあー！

古希 まだまだ70、その腰のウ古希（動き）伊達じゃない！

喜寿 まだまだ77、スキーに喜寿ルシ（キ印）で忙しい！忙しい！

傘寿 まだまだ80、スキーじゃ貴方はアタシの傘よ、仲良く傘寿（3時）のおやつは文明堂！

米寿 まだまだ88、お米を食らって、ほっぺも米寿（ベージュ）に塗って滑らにや滑らにや！

卒寿 まだまだ90、板の卒寿ウ（操縦）ままならず、スキーはなかなか卒業出来んのじゃ！

白寿 さてさて、99まで良く滑ったと、白寿（拍手）されりやあと1年行くか！

上寿 何と100の上寿（じょうじゅ）には届いたが、ワシはスキー上寿と言われたい！

●下手な横スキー（好き）の マスターズ スキー道極め歌

作者 極道者（ご苦労者）●

昔からダジャレ一筋！

作：森屋



初心者叱るな 来た道だもの  
年寄り笑うな 行く道だもの  
来た道 行く道 マスターズ  
これから通る 今日の道  
通り直しの出来ぬ 道



# 10年ほど前からの写真



1



2



3



4



5



6



7

- ① 2001年 木曾馬籠
- ② 2003年 キ口
- ③ 2002年 奥日光
- ④ 2004年 八方 丸金
- ⑤ 2005年 吾妻溪谷
- ⑥ 2008年 菅平 第1館
- ⑦ 2003年 猪苗代



2007年 菅平



2006年 塩原



2004年 ルスツ



2003年 カナダ





今年の総会

懇親会



祝 25周年

小平マスターズスキークラブ  
創立25周年記念総会

